

An illustration of two anime-style girls standing in a garden. The girl on the left has long, flowing green hair and is looking towards the girl on the right. The girl on the right has long, flowing pink hair and is looking back at the first girl. They are both wearing light-colored, sleeveless dresses. The girl on the right has a small bracelet on her left wrist. The background is white with scattered blue snowflakes and green vines. Large, brown, autumn-like leaves are visible in the upper right corner. At the bottom, there is a row of yellow flowers.

# 道德の箱庭・結

*With something to wait before running away from a miniature garden.*

成人向  
for Adult only



それに、

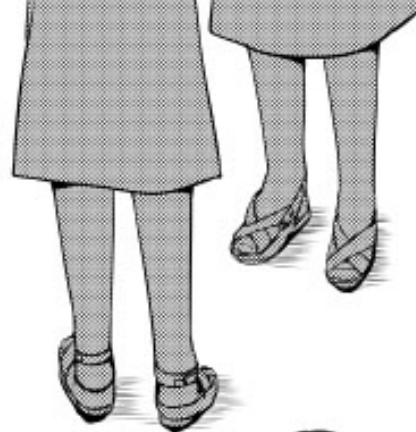
お母さんも  
亡くなられてる  
みたいだし…

そうなの…

引き取り先  
見つかるの  
かしら…

私を産んだ時  
母は死に、

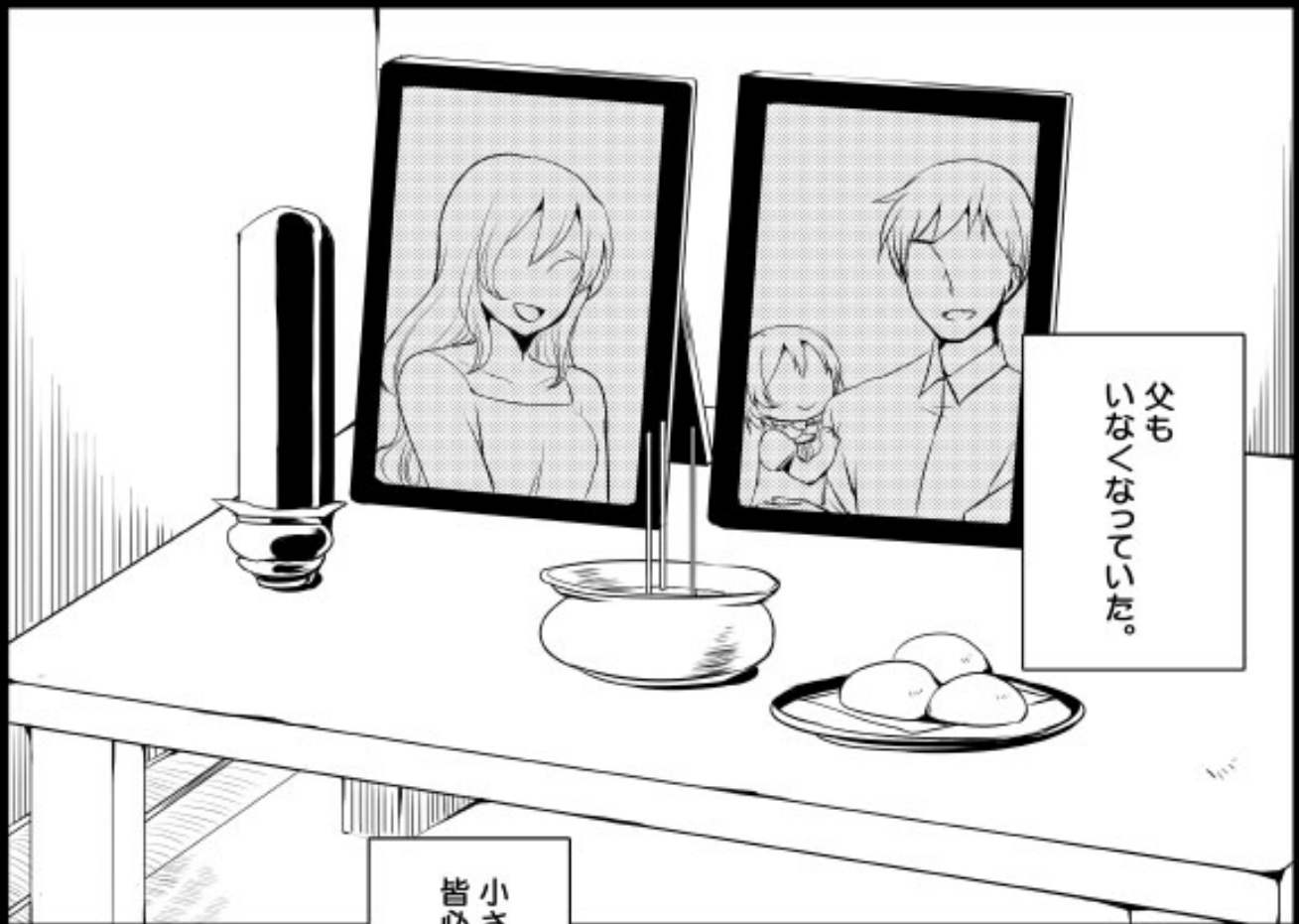
病院で目が  
覚めた時には



記憶が…？

そうなの。  
お父さんの事  
ほとんど分らないん  
ですって。

可哀想に…



父も  
いなくなっていた。

小さな町で  
皆必死に生活してる中、

喜んで子供を  
引き取るうとする  
親族も無く、



ようやく  
決まった先では、





うちの人に  
色目なんか使って!


めいぞう箱  
何だてか

や、知りませんでした  
引取さんじゃ  
おれ

おじさんと  
ようやく仲良く  
話せるようになつたら

罵られ、  
追い出された。

出ていって!!  
出ていって!!




ねえ聞いた？  
あの噂。旦那さん  
たぶらかされたっていう…

まさか！まだ小さい  
女の子でしょう？

あの奥さんて  
他所から来たんでしょ？  
やっぱ無理が  
あつたんじやない？


それより  
次の引き取り先  
だが…

うちは嫌よ。  
なんかあの子  
気味悪いもの。



いろんな家を  
まわったけれど

有ること無いこと  
噂は飛び交い、



どこへ行っても  
長くは続かなかつた。



あばあさんによると  
自分の息子も一緒に  
住んでるらしくて、

今までは  
嫌々引き取る人たち  
ばかりだったけど

喜んで迎えてくれた  
この人たちとなら  
辛いことは起こらないはず。



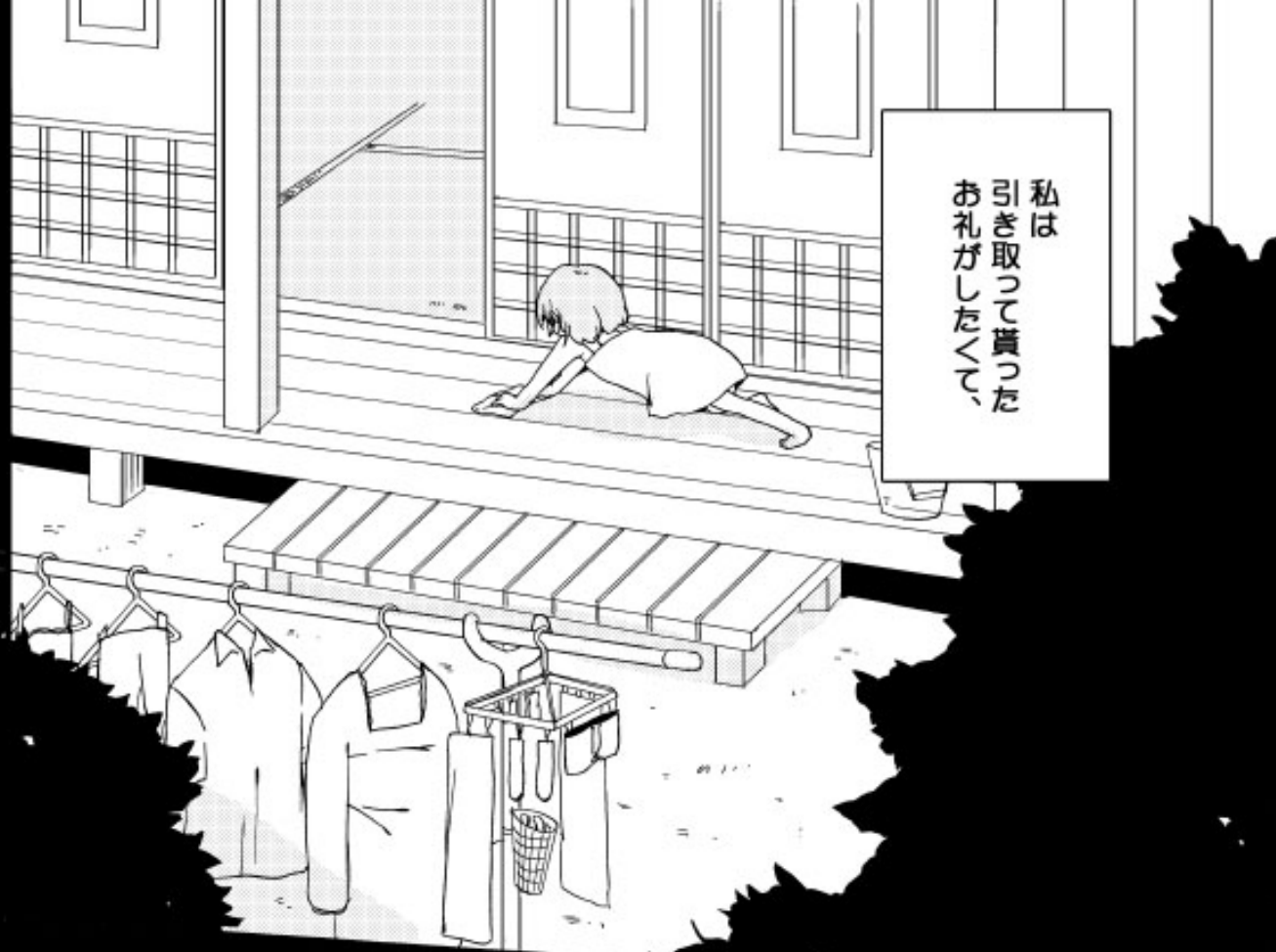
よっ…  
よろしく  
おねがいしますっ

おやおや  
いいんだよ  
そんなにしなくて



—そう信じて  
疑わなかった。





私は  
引き取って貰った  
お礼がしたくて、



家の手伝いを  
沢山した。

すみ  
まし





ルカちゃん  
ちよつと  
いいかい

はい



必要とされてるよ、  
褒めてくれるよ、



頭を撫でて  
くれること。

全部が嬉しかった。



おーチビ  
どっか行くのか

だから、  
時折向けられる  
あかしの視線には、

わざと気づかない  
ふりをした。



うん、  
斎藤さんち  
いくの。

おーチビ  
どっか行くのか

うん



それは  
今まで行く先で  
向けられていた

慮げるものとは  
違ったから、

それだけなら  
やり過ぎせると  
思ってた。

でも大好きだった祖母が  
亡くなった途端、

叔父の態度は  
大きく変わった。

ガラガラ

は……

ついに  
かーちゃんも  
死んだかー

これから  
二人で仲良く  
しような。

……

なっ

！！

さすがに  
かーちゃんいる所で  
やれねえからな

あーでも  
途中でよっかい  
出してたから  
そんなんでもねーのか

はは

ニホ

…晩年、祖母は  
目も耳も悪くなつて  
いたから

家で何が起きてても  
気づいて  
いなかったと思う。

……

…何か言えよ。  
つかどーせ行くところも  
ねーんだし、  
…大人しくしてろよ？

ニホ

わかんねー  
わけじや  
ねえよな

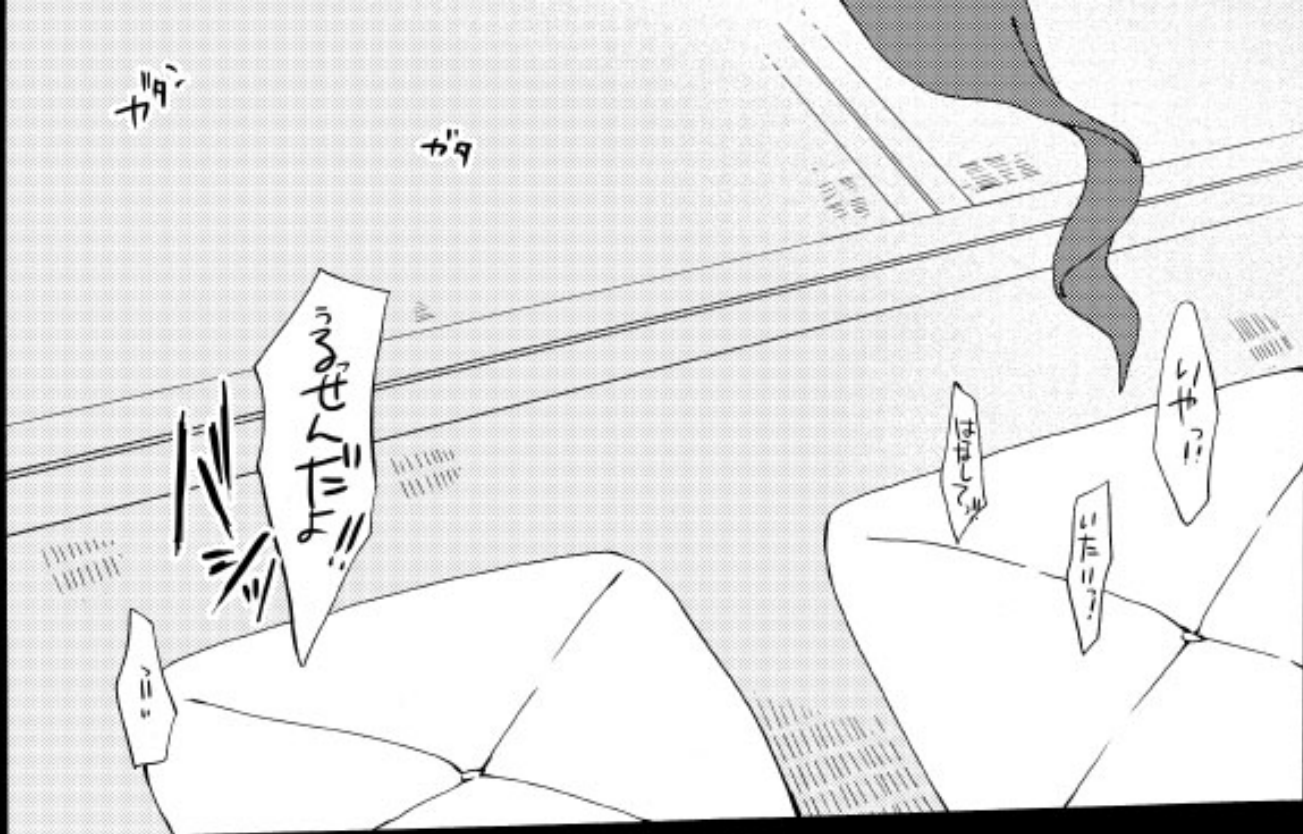
15

…聞こえねえのか

脱げつってんだよ

……

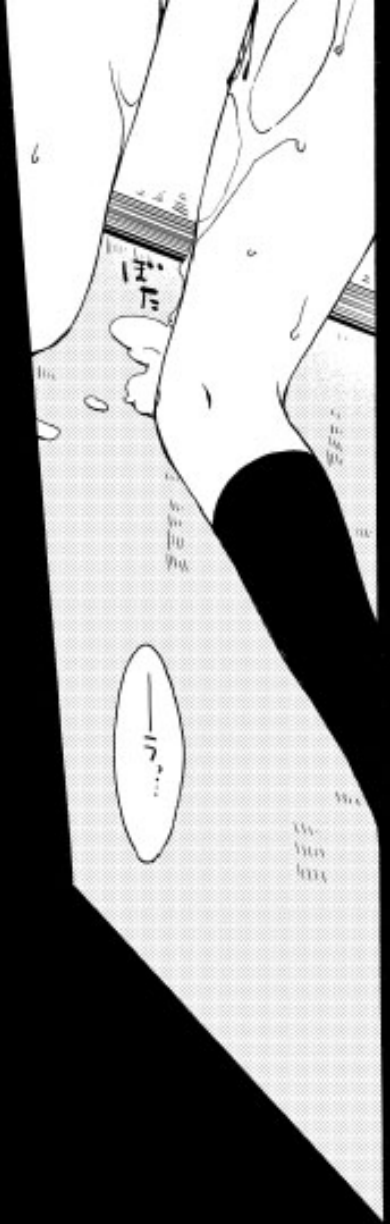
……



どうして私ばかり  
こんな目に遭うの？

それとも  
他の人も皆こんなこと  
されてるの？

うんうん...

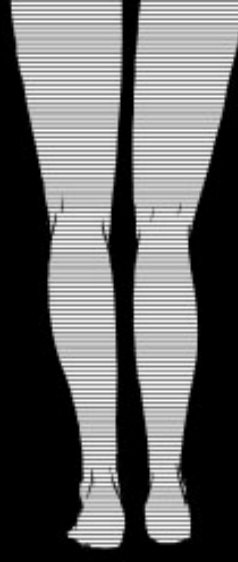


今すぐにも  
逃げ出したかった。

でもどこにも  
頼れる人も  
行くところもなくて、


父と一緒に写っている  
写真だけを  
心の支えにして、

おしおしおし、おしおし。  
我儘でした。




我慢に我慢を  
重ねた結果、

ようやく  
自立できるよう  
なった頃には



通院なくしては  
生活できなく  
なってしまうていた。



性的なものには  
不快を覚え、

気分が悪くなる事も  
少なくなかった。



成人向け雑誌

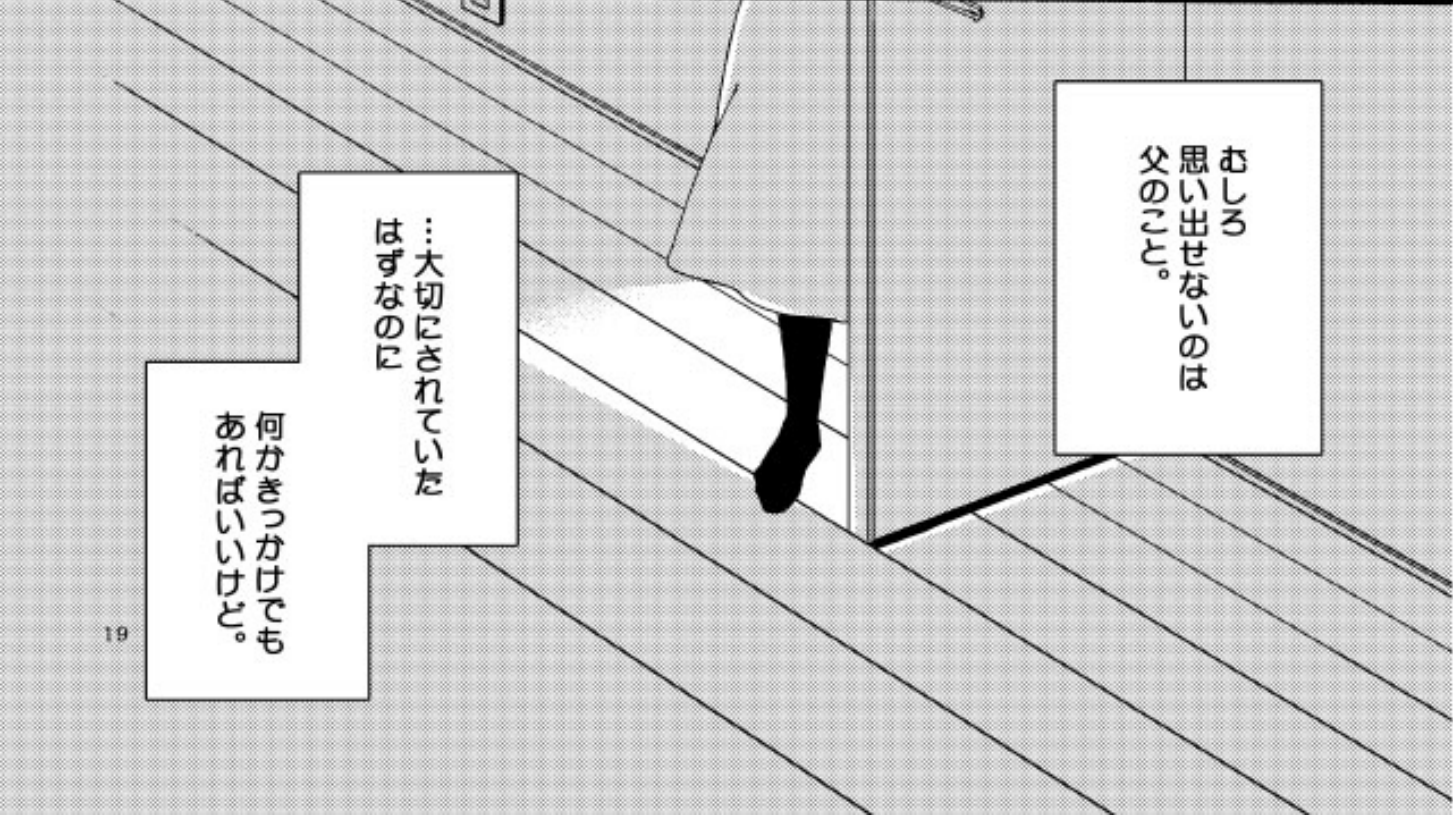


…いい加減  
ミクにする度、  
思い出すの  
どうにかならないの？

まほ



…忘れた  
ことなんて  
一度も無いけど。

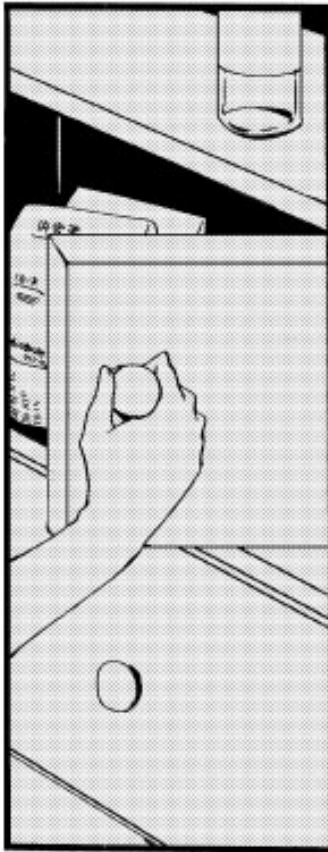


おしろ  
思い出せないのは  
父のこと。

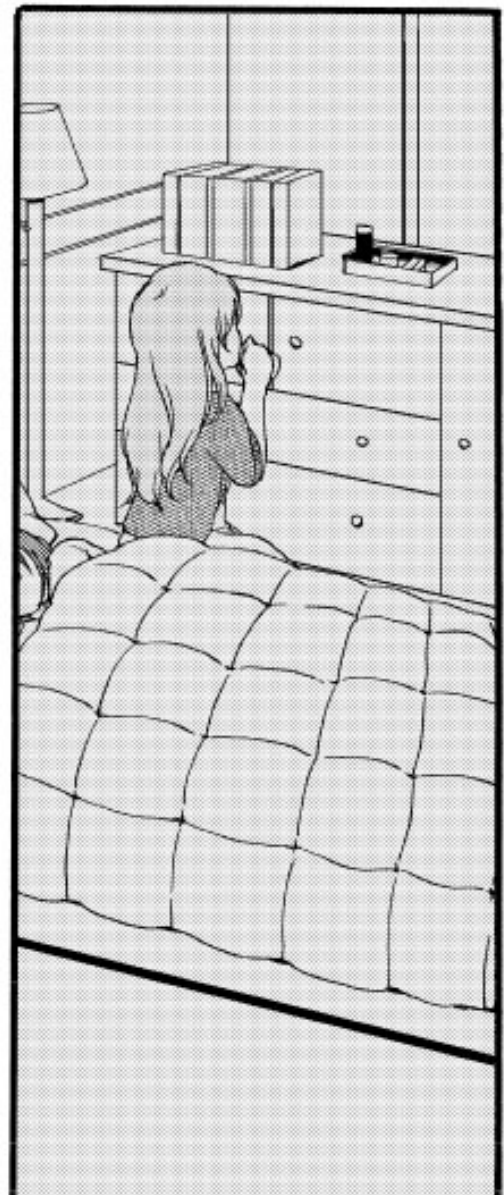
…大切にされていた  
はずなのに

何かきつかけでも  
あればいいけど。





…自分でも行動に  
矛盾があるのは  
わかってる。



ミクが来た  
ばかりの頃は

生活が大きく変わって  
大変だったけど、

充実していて、  
薬が無くても  
眠れる日も多かった。



——でも  
ミクが  
元気になってきて  
つい考えてしまった。



もし、私の時にも  
本当に優しい人がいて  
不自由なく育てて  
くれたらさ...

今とは全く違う私が  
いたんじゃない？

引き取られた先で  
暴行受けるのって  
どんな気持ちかわかる？

ミクは両親から愛され、  
まっすぐ育てられて



キラキラしていて

私には無いものを  
沢山持っている。



ミクちゃん……

……そういえば、





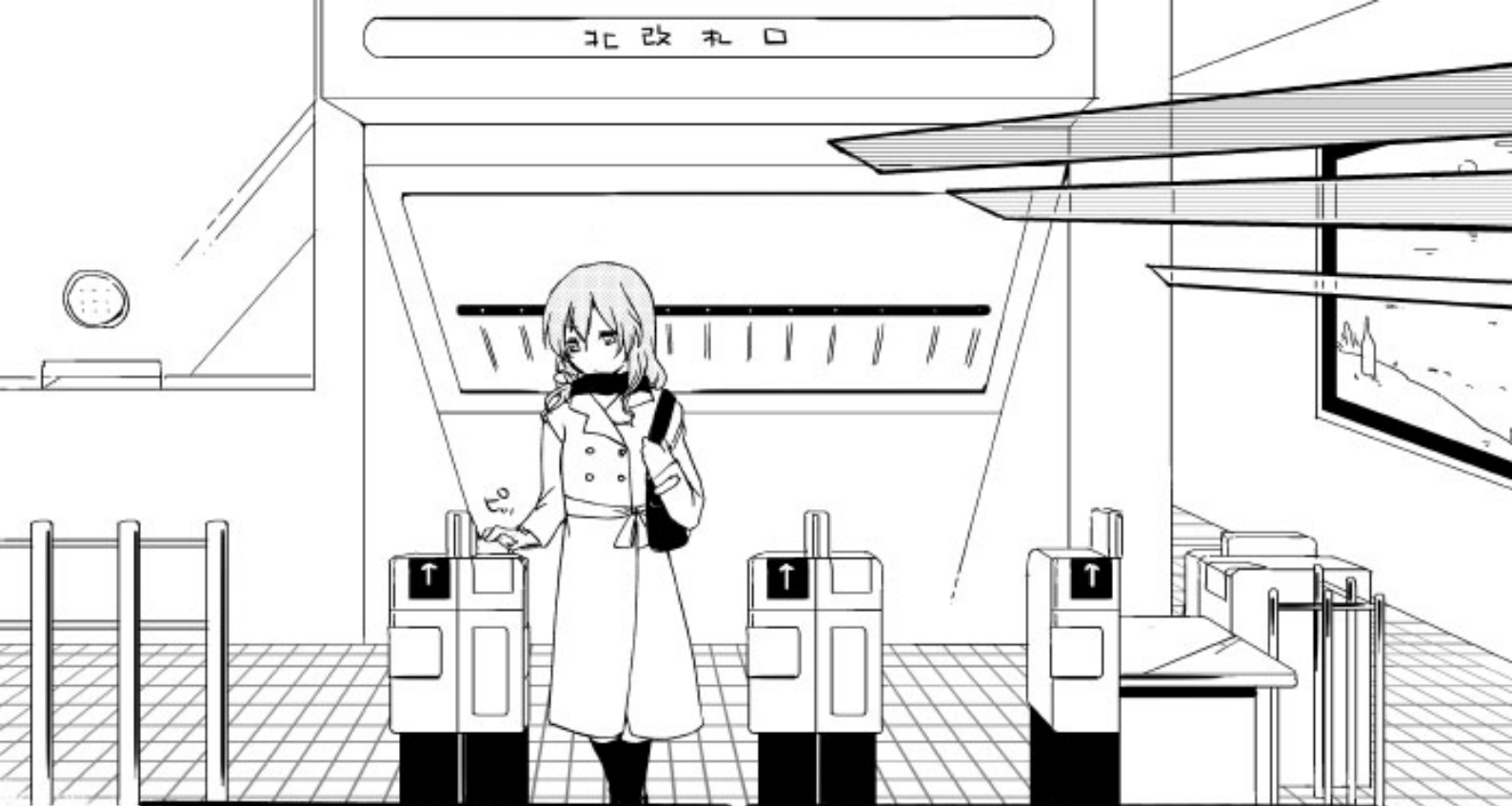
どっさり意味なの…？

私の行為は『自分への罰』だと  
言っていたけれど、



私がミクに話していないことがあるように

ミクにも言えないことがあるのね。





そんな事言って、  
鼻も赤いし  
寒いんじゃない。

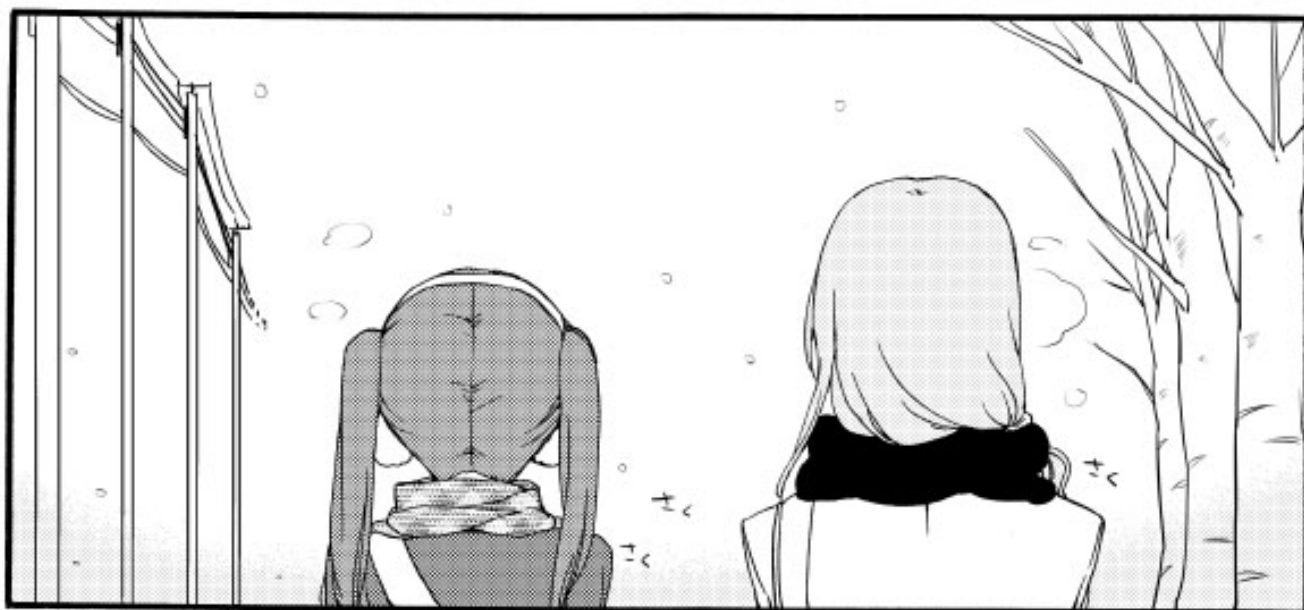


あ、この前  
買った入浴剤  
入れてもいい？

うーん！

うん！





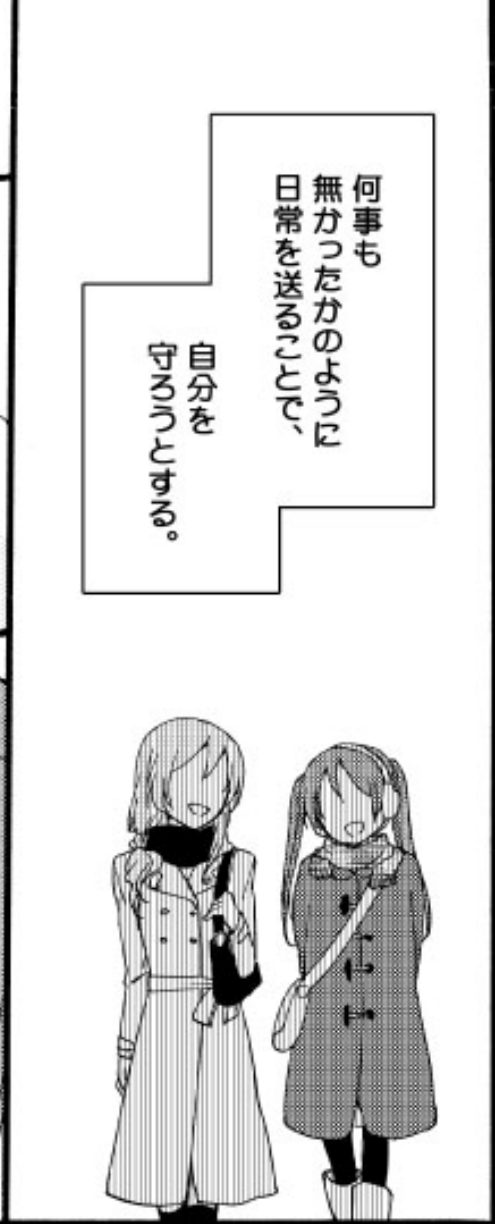


その心理は  
痛いほど  
よく分かる。

何事も  
無かったかのように  
日常を送ることで、  
自分を  
守ろうとする。



私もよく  
...さっじしていたから。



ミツが聖のなのさ



...昨日のこと、  
やり過ぎてしまった事を  
謝りたかったけれど、



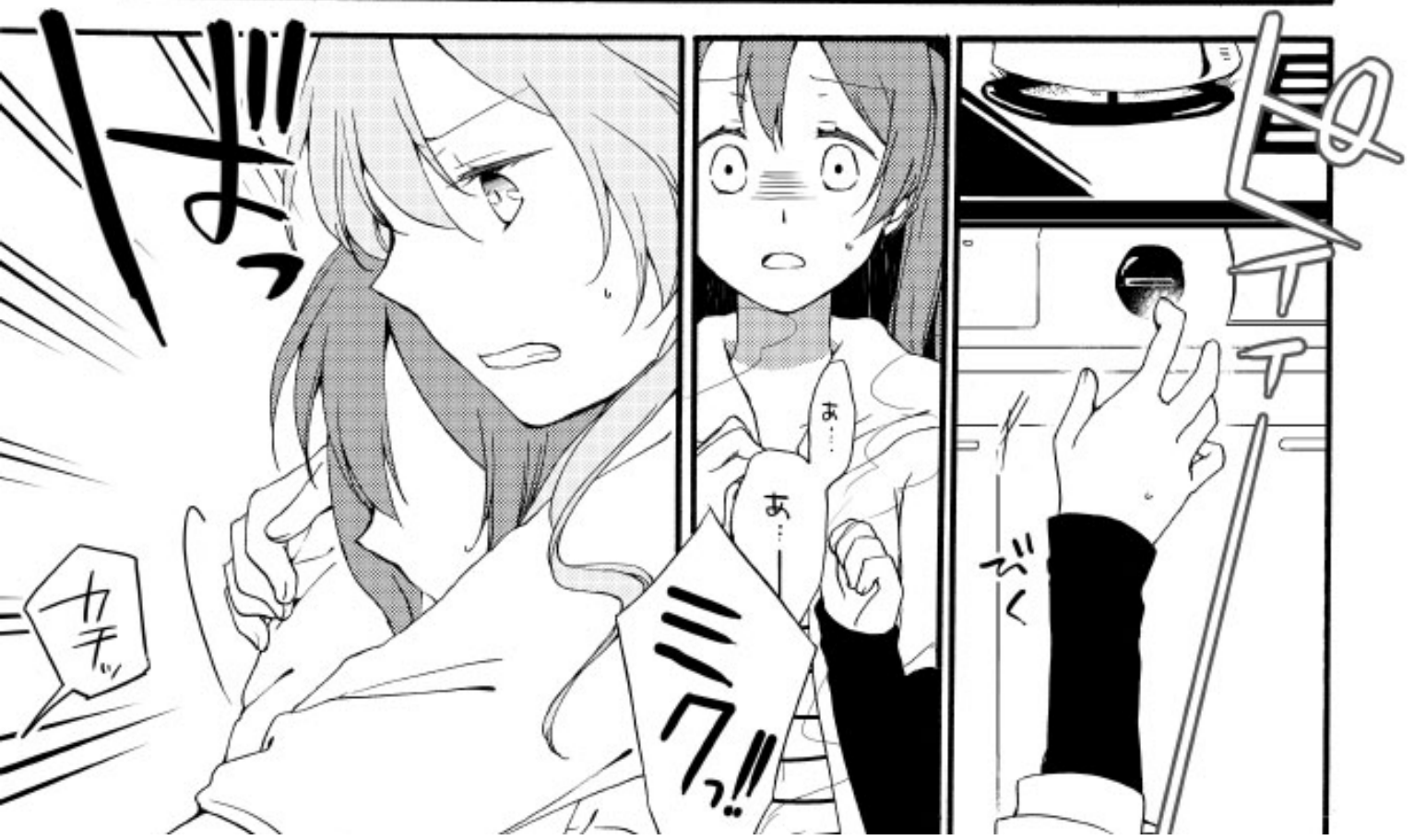
あーん

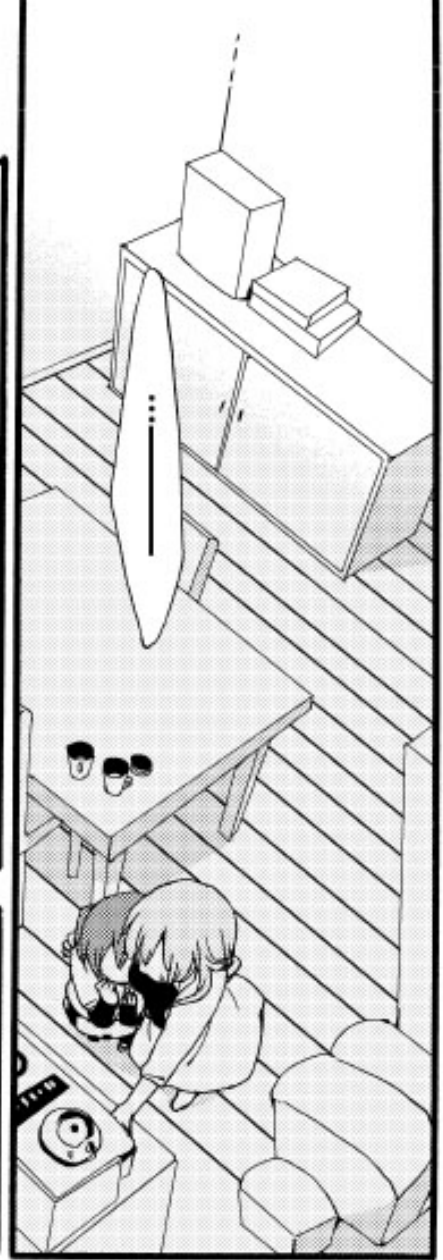
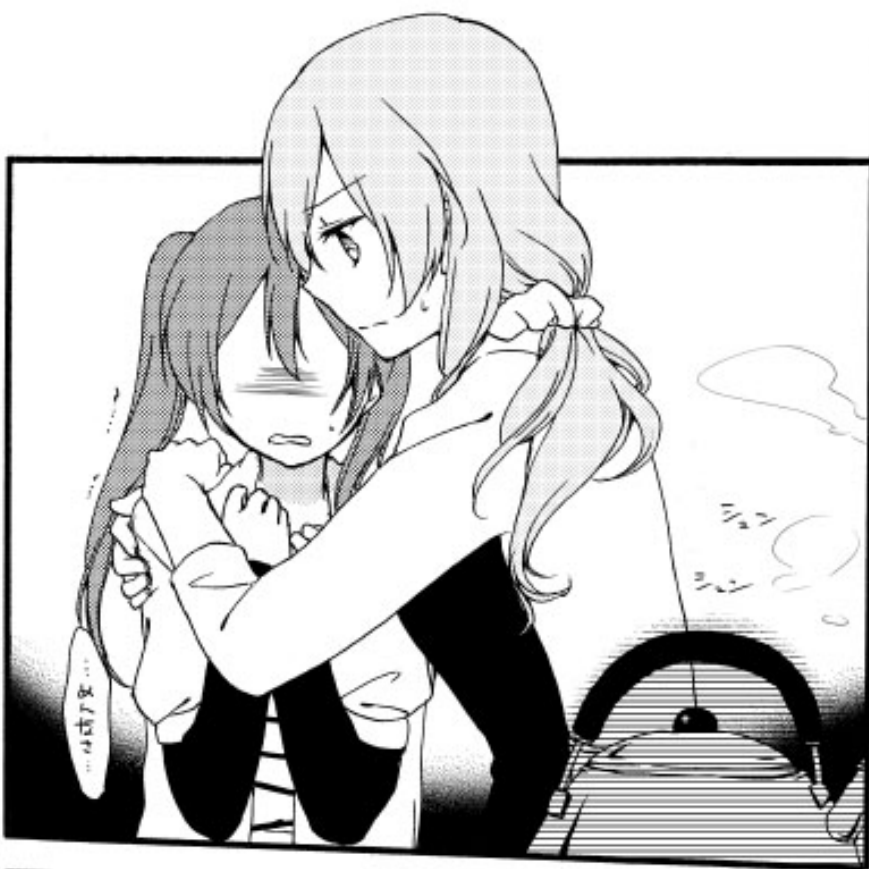
私も  
「いつも通りだ」  
振る舞うから。



.....







ミクはあの事故以来  
火を扱うことが  
出来ない。

火事で両親を  
失ったんだから  
無理もない。

ただ、ひとつ  
気になっているのが



おはようございませう。

おはようございませう。

『ごめんなさい』  
とごうごう言葉。



今まで何度か  
似たような事が  
あったけど、

ミクから出てきた  
言葉は全て  
『ごめんなさい』だった。

火が怖いのなら  
『怖い』とか『見たくない』とか

そういう言葉では  
ないのかと  
思っていたけど……



これ  
運んでもいい？



ほ、

ルカちゃん

それとも他に何か  
ミクが直接事故に  
関わっていたりするの…？



もう平気なの？

うん、さつきは  
ごめんね？私も  
片付け手伝うよ。

……考え過ぎね。







…どういう意味か  
わかって言ってる？



うん。

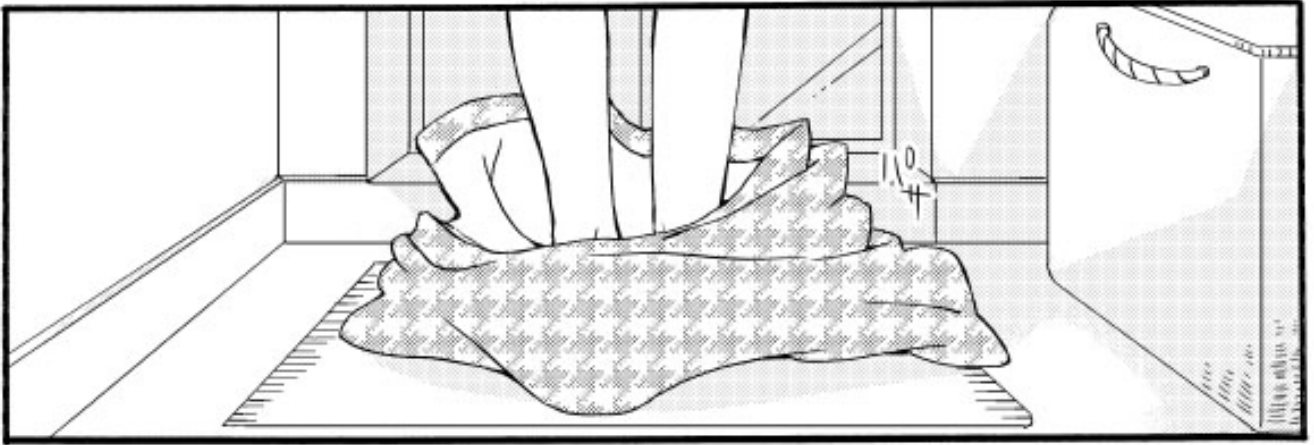


昨日のことがあるから  
今日はしないつもりで  
いさひや、

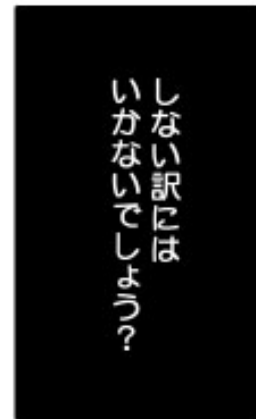


わかった。シャワー  
あびたら行くから、  
先に行つてて。

うん



35

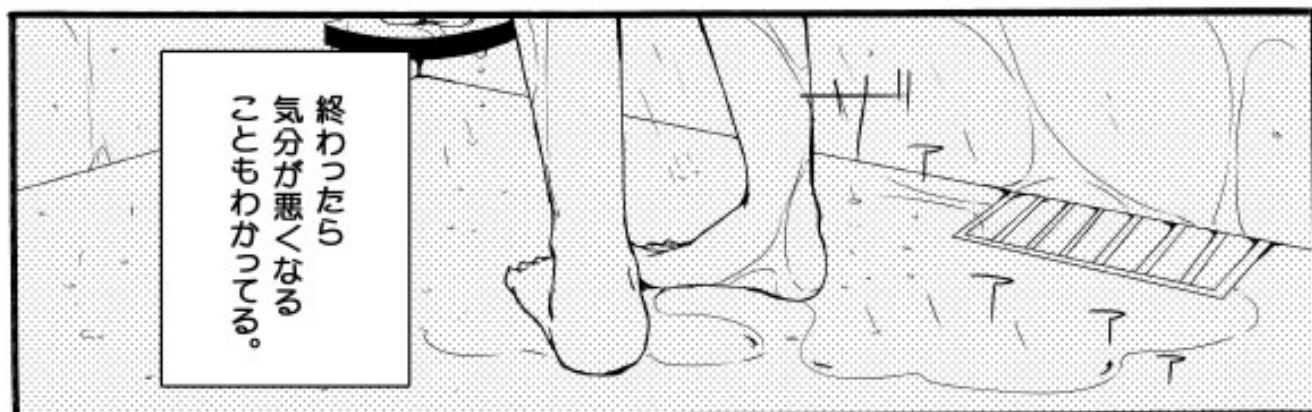






ミクに  
依存されることで

私が依存している  
だけかもしれない。



終わったら  
気分が悪くなる  
こともわかってる。



でも、そんなこと  
どうでも良くなると  
思ってしまう

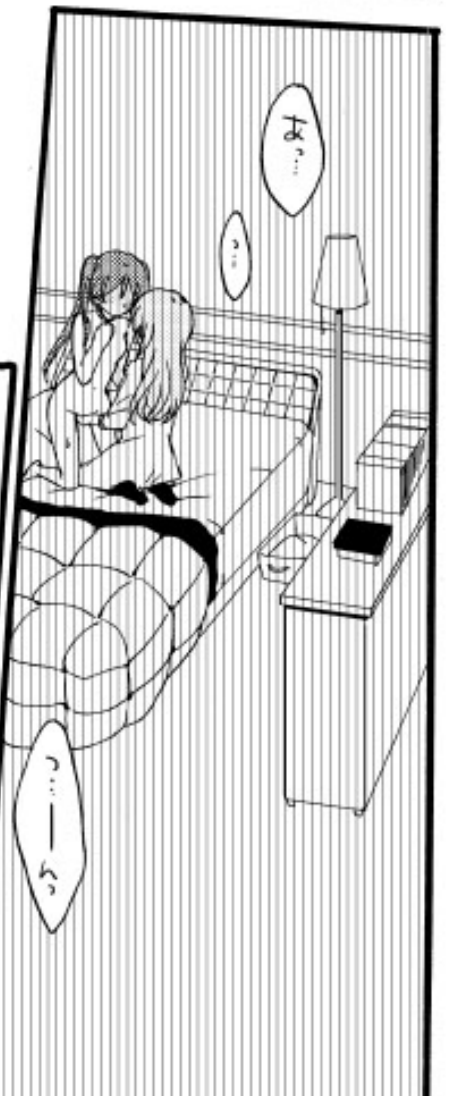


私はこの、得体の知れない

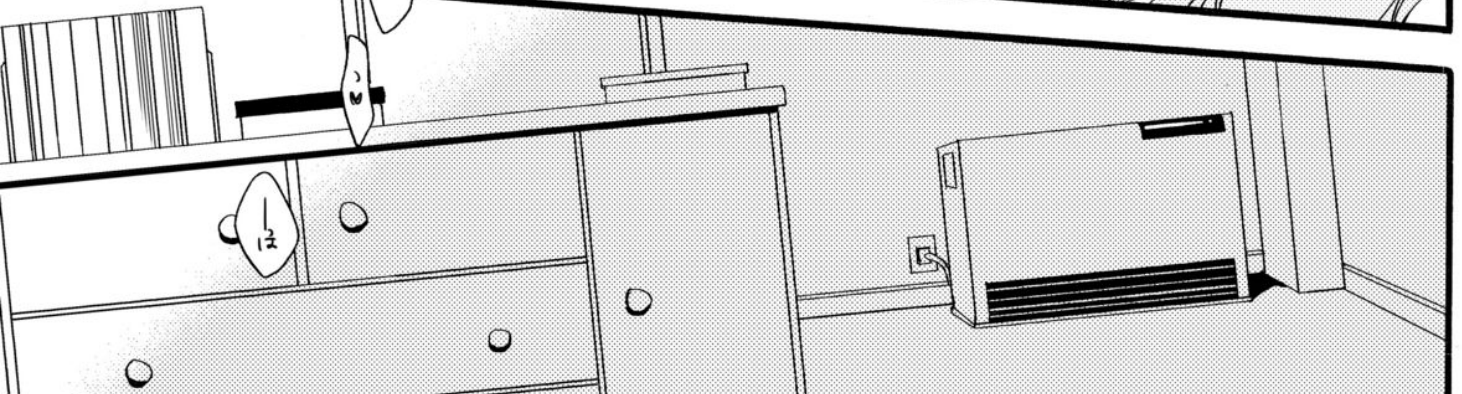
高揚感と満足感で

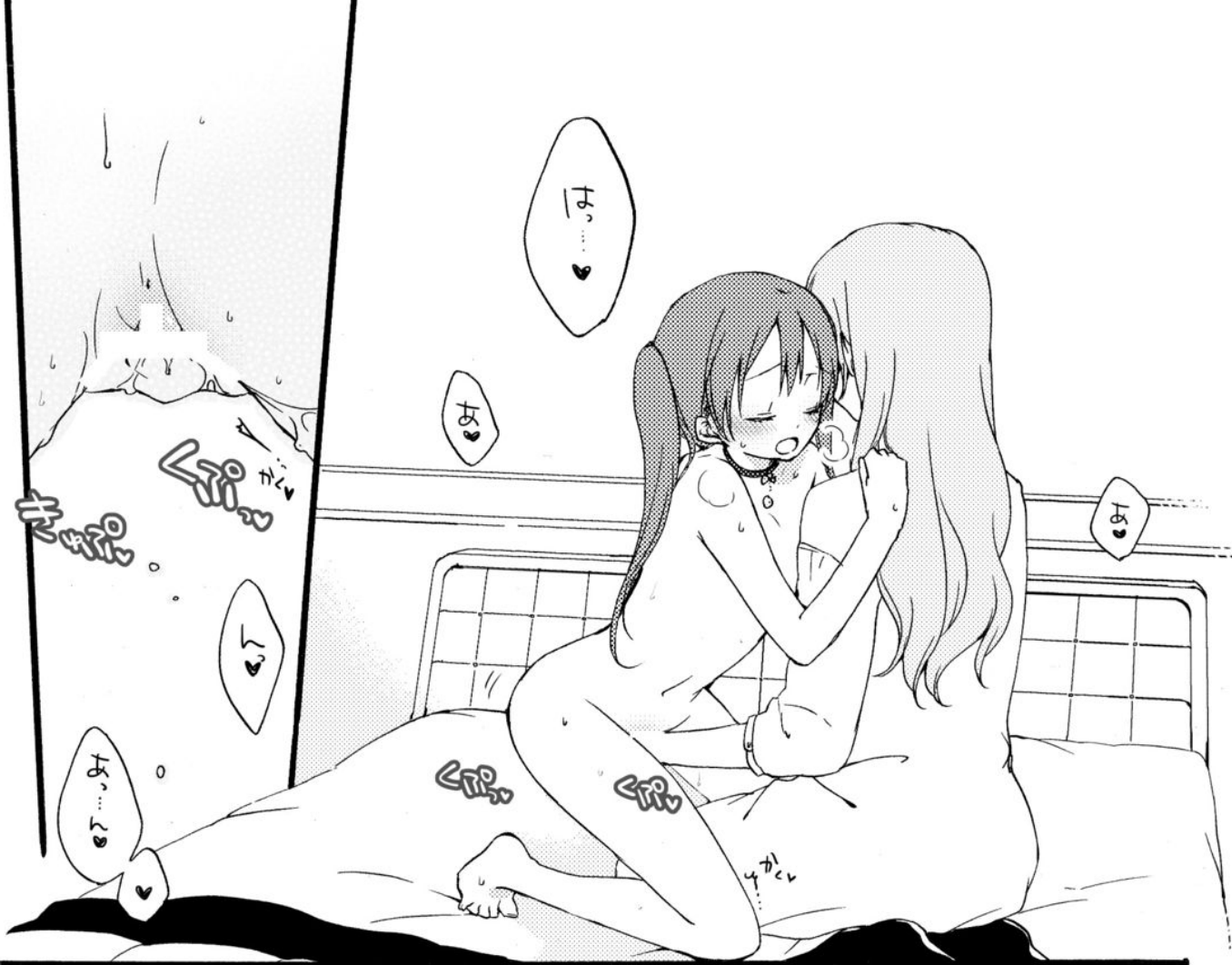


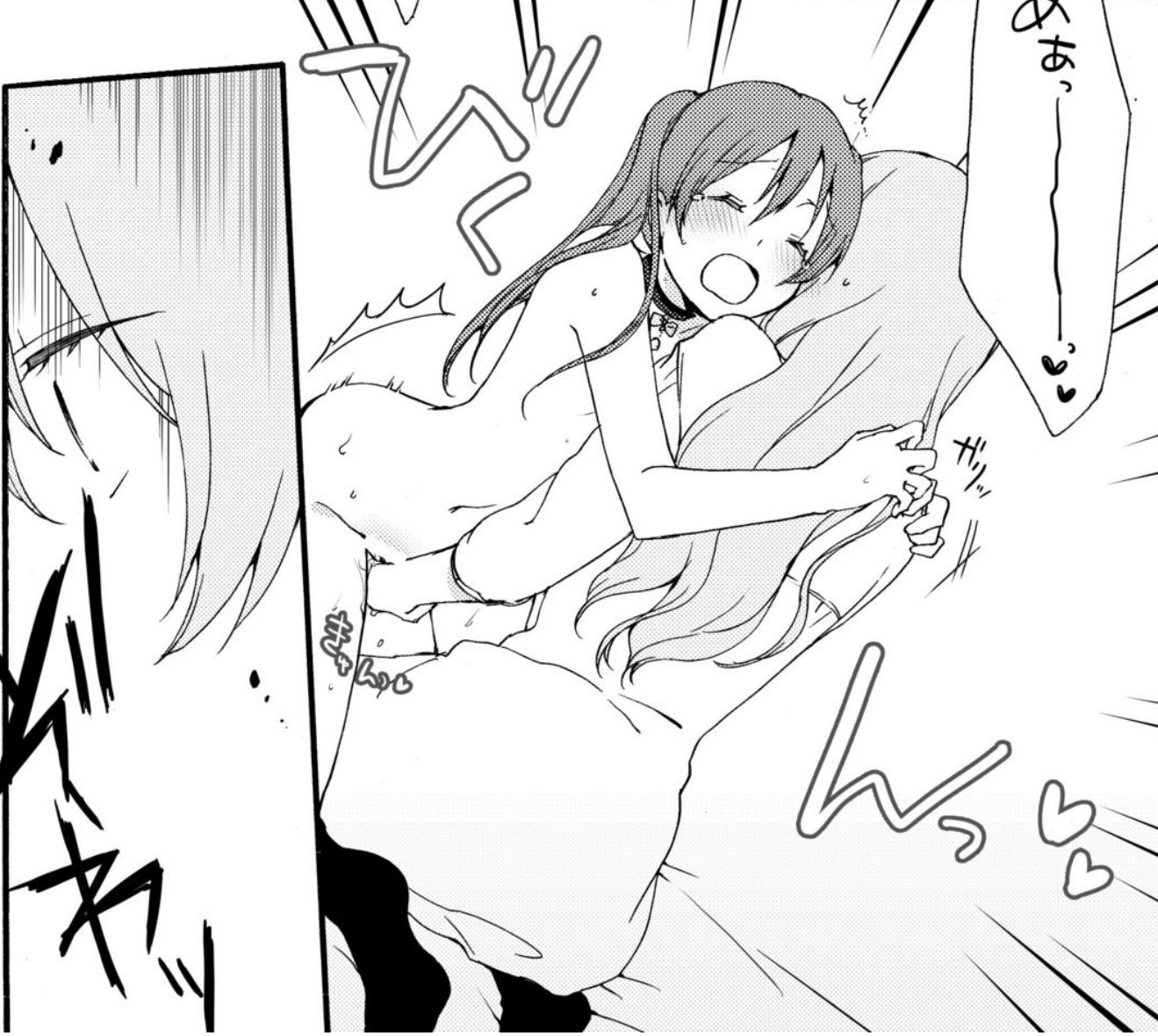
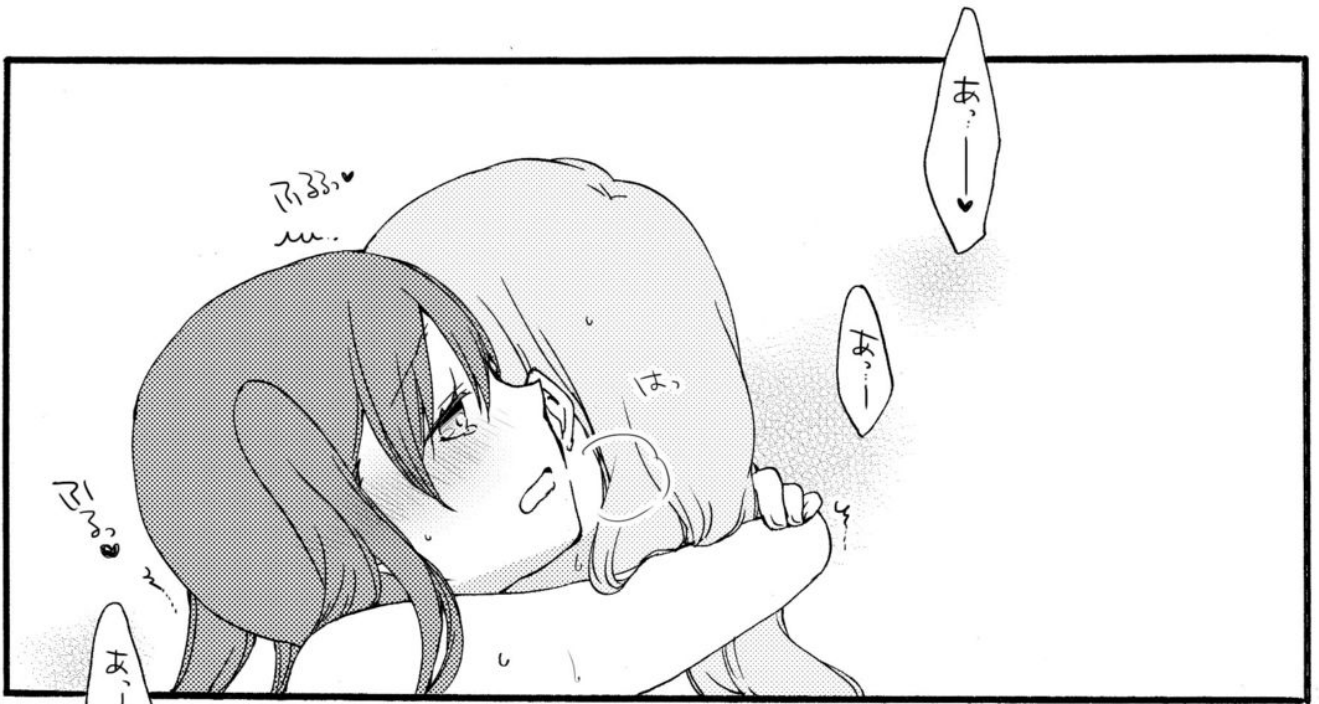
——もう囚われてしまっている。

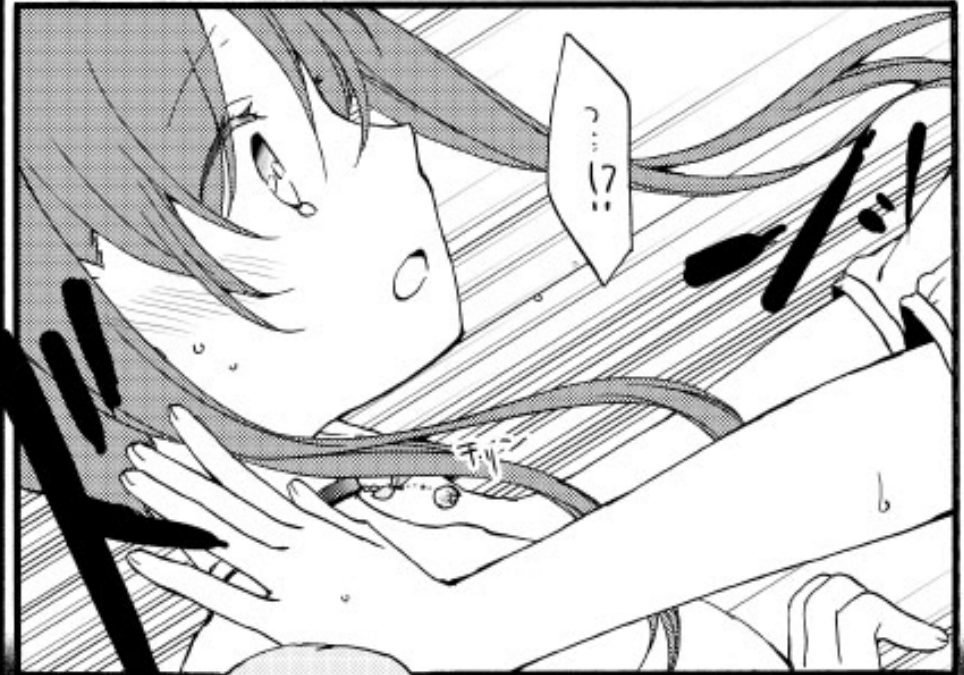














大丈夫……？

ルカちゃんっ！

はっ  
ッ

フリニ

何でも……



ルカは可愛いね。

本当に  
母さんによく似てる。

でも僕たちはもう  
母さんには  
会えないんだ。

どうしてだか分かるかい？

自分の命と引き換えに、ルカを生んだからだよ。

あの時もルカを生まない  
選択をしていたら  
母さんは今頃どうしてたかな。

僕はね、反対したんだよ。  
君の体を第一に考えて欲しいって。

「大丈夫よ二人元気に  
帰ってくるから。」

——そう言ったのが  
僕の見た最後の姿だった。

ルカにはまだ  
難しく  
よくわからないかな。

とにかくね  
僕はルカを見ていると、

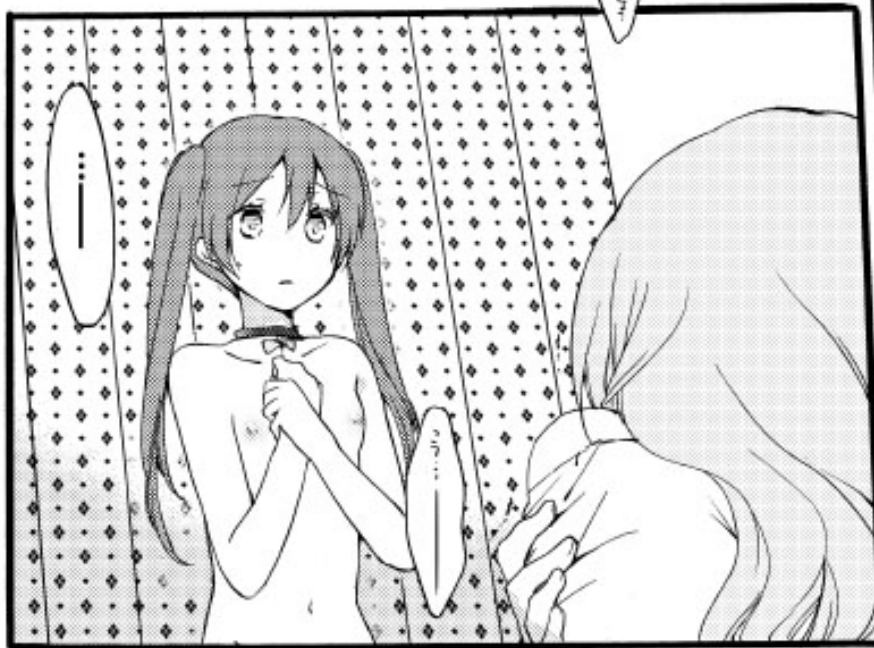
——愛しくて、  
でも憎くて、



—— どうしようもなく  
苦しいんだ……



16...





ルカちゃん。



大丈夫だよ？



あ…えつと…  
ごめんね

なんか怖がってる  
みたいだったから  
つい…

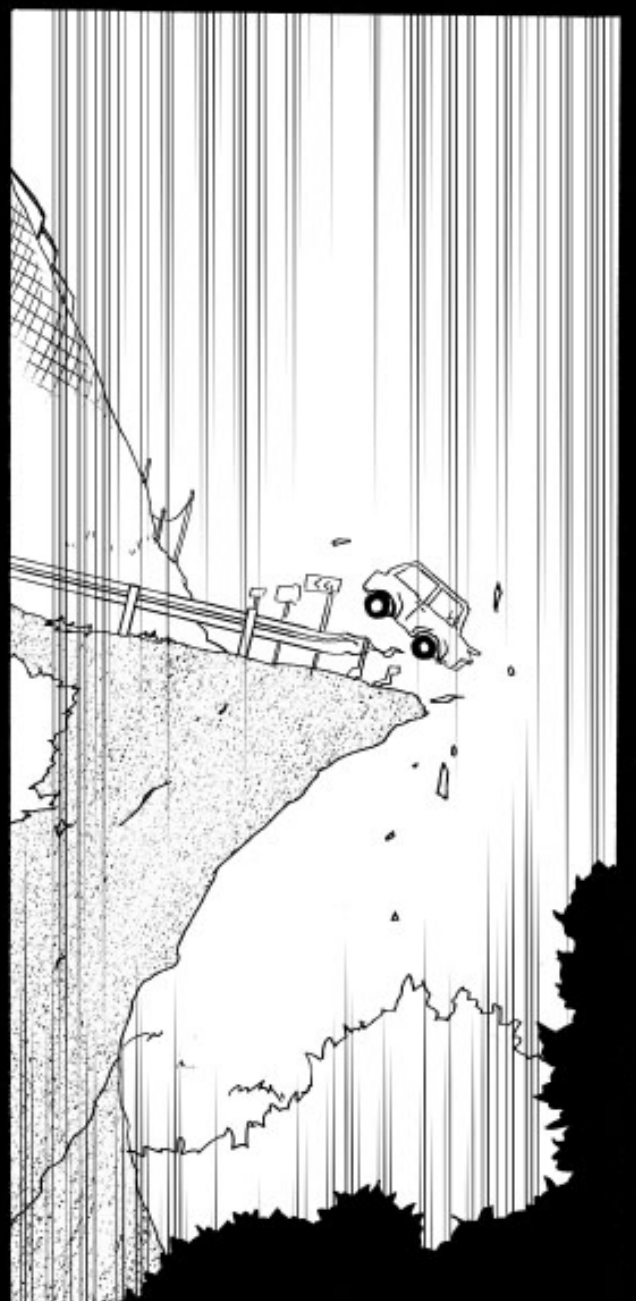






幼い頃から  
ずっとあつたから

記憶もない頃に  
出来た傷だと  
思ってたけど…



一緒に行こう、母さんの所へ。



そんなに外が  
めずらしいかい？  
いつも家だったもんな

今日とはびきり  
いい所へ連れていくからな。





急げ!



待て……



小さい子が  
いるぞ!



少女一名  
発見しました

よし、そのまま  
ひきあげるぞ!





生きてっ...

アイツは死んだのに...  
どうして...

どうして  
また  
お前だけが

少女救出  
しました

なお同乗者の  
男性は車と共に

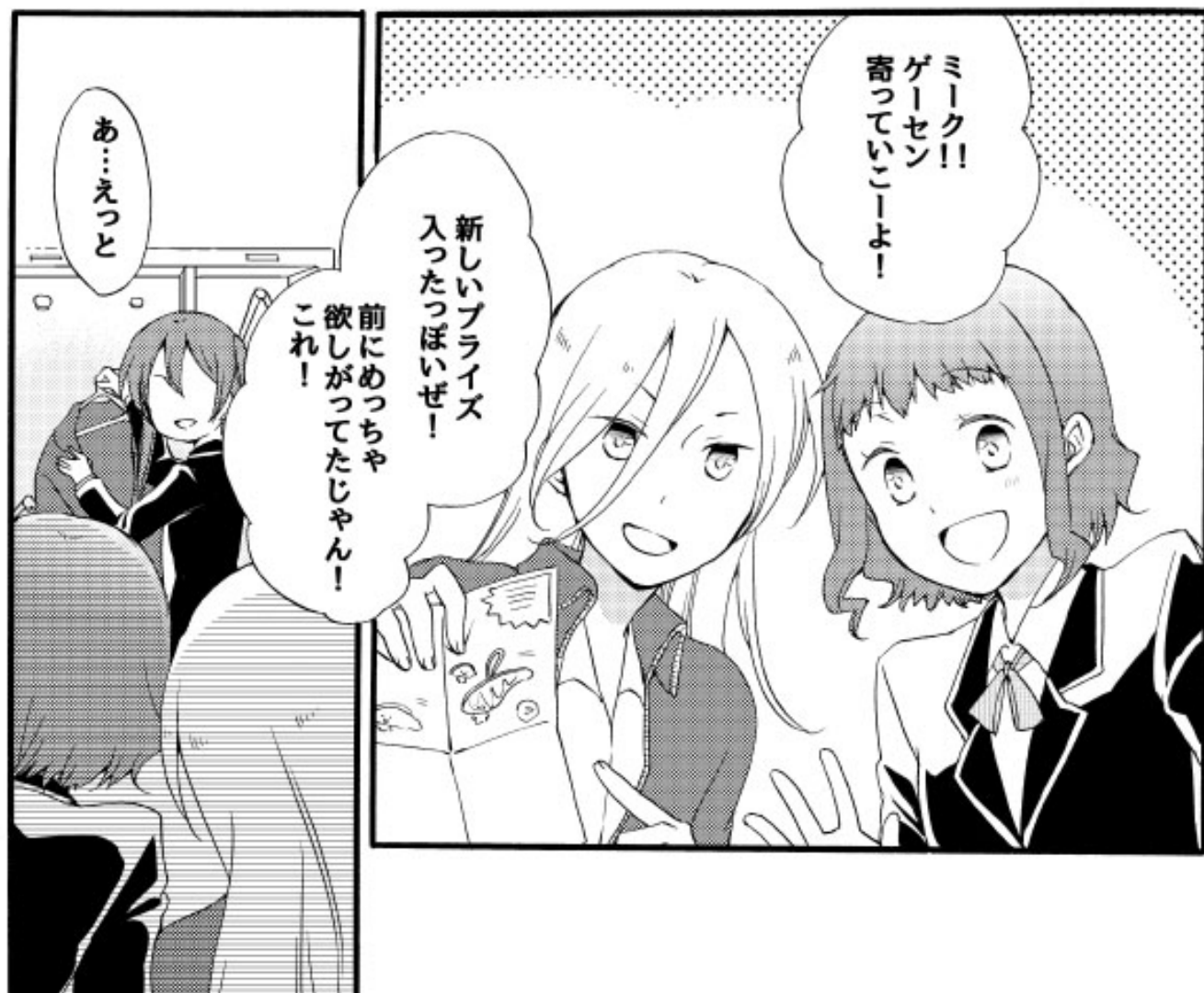
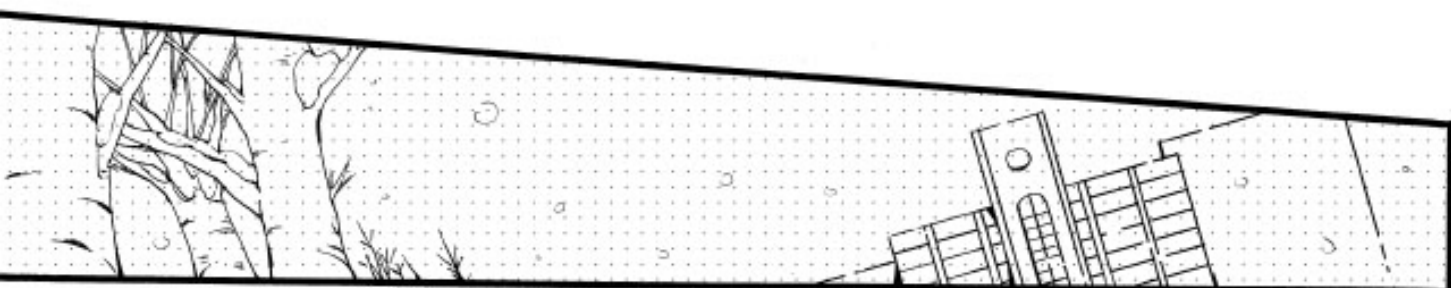
ああ…  
思い出した

父との写真は  
あの日  
撮ったものだ

最初から  
私は

誰にも  
愛されてなんか  
なかった

その夜を境に  
薬を飲んでも  
ほとんど眠れなくなった。



ごめんね  
今日もまっすぐ  
帰るから…

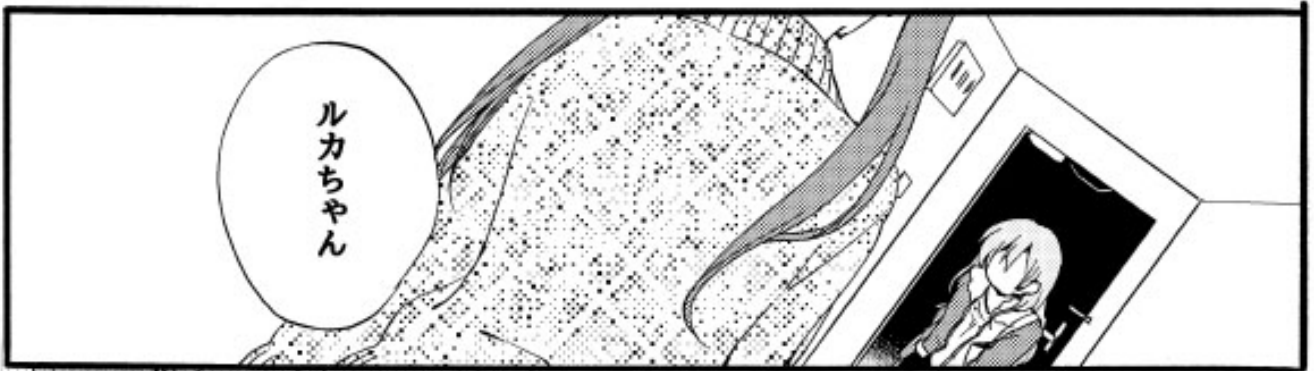
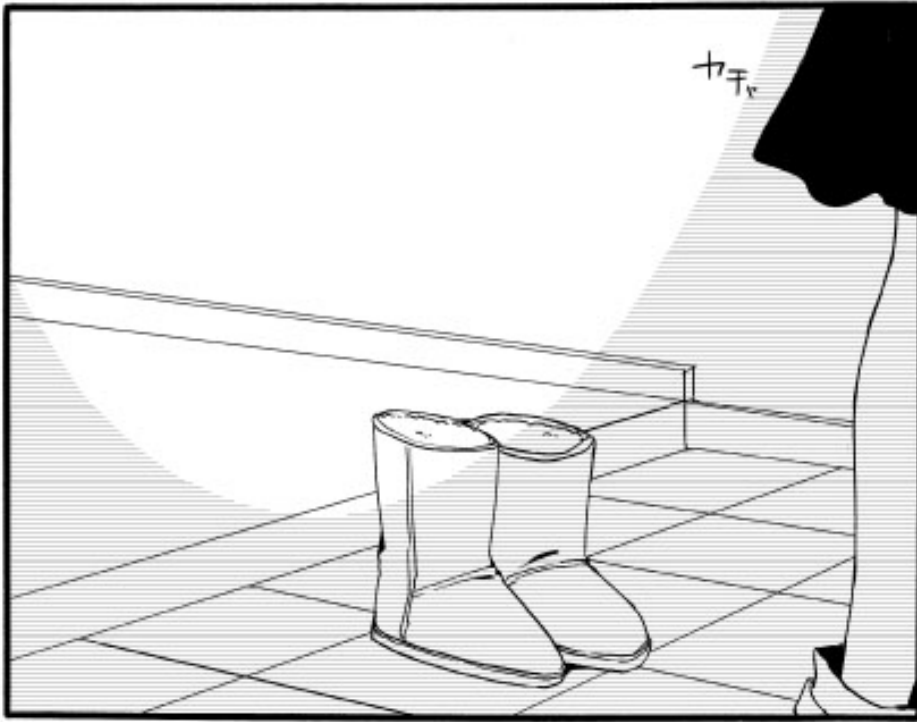


…最近ずっと  
こんな感じ  
だよな

うん…落ち込んでる  
っていうのとも  
違うけど、

どうしちゃったん  
だろうね…

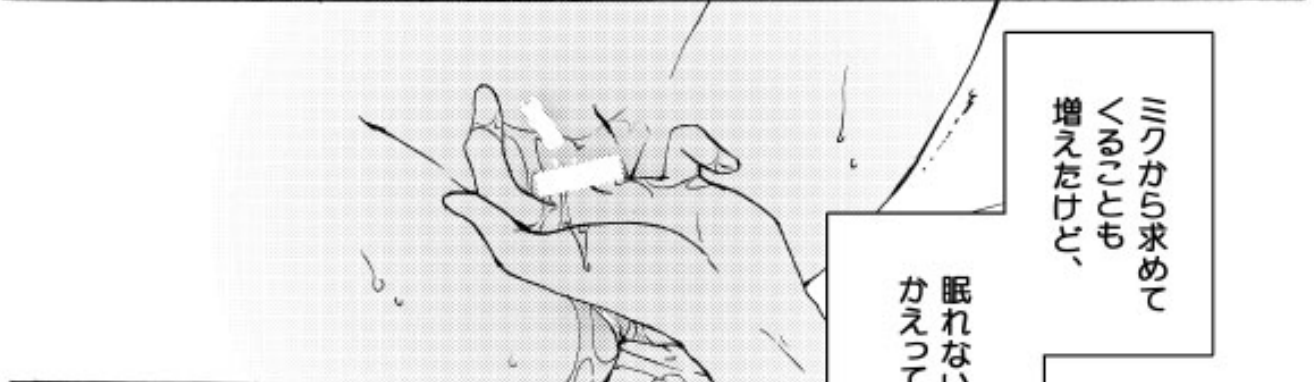






『週末のみ』  
そんなルールは

いつの間にか  
無くなっていた。



ミルクから求めて  
くることも  
増えただけ、

眠れない私にとっては  
かえって都合が良かった。



目を閉じると、  
…あの顔が浮かんで  
きてしまうから。









は、  
あ、  
ミクに  
求められているから  
しているだけ。

私は、父や  
あの人とは違う。



ミクにはこれが  
必要なの。

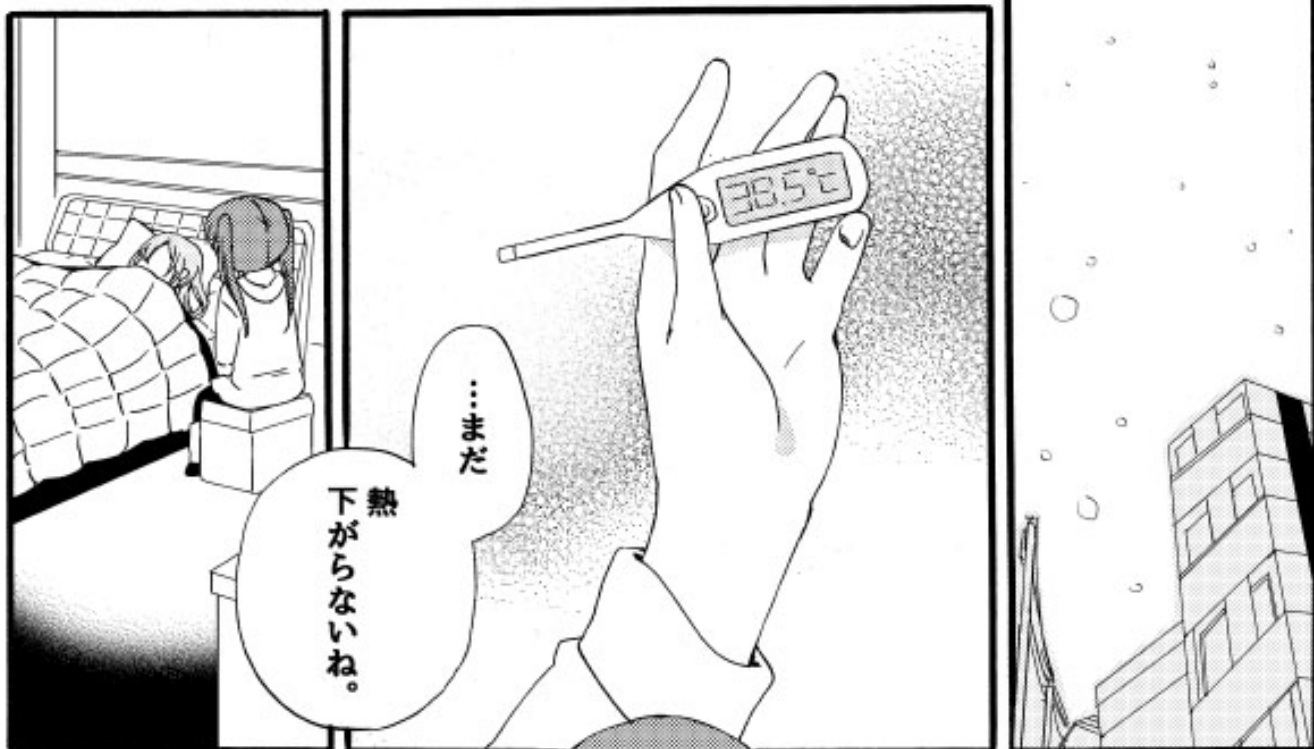


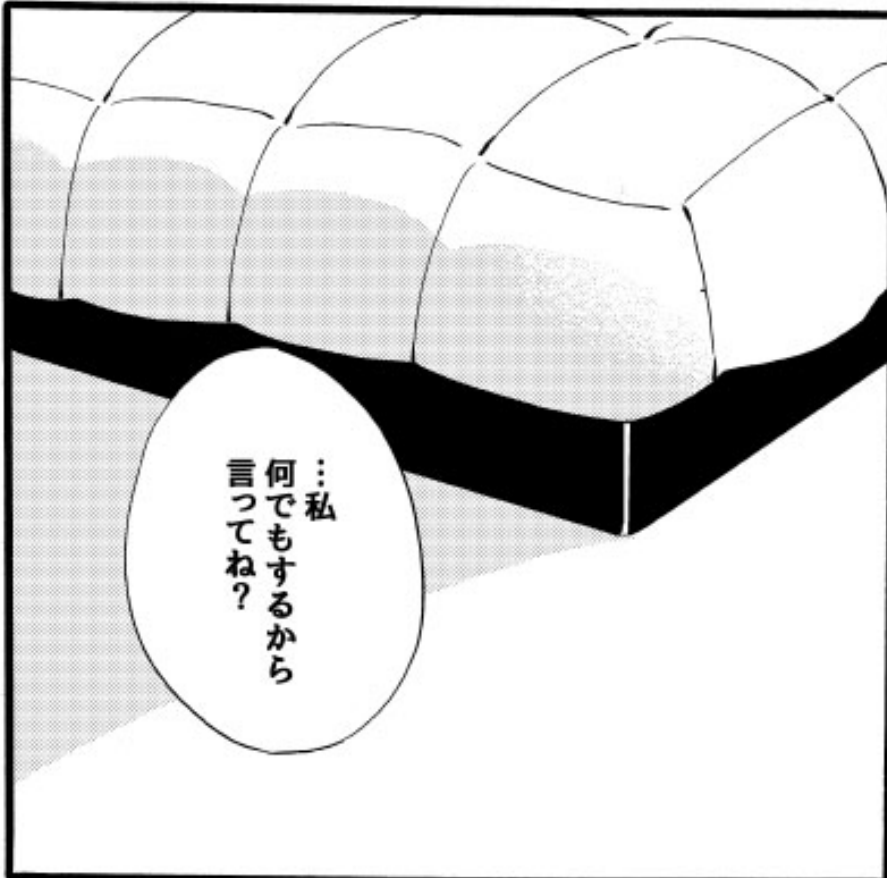
そう自分で  
言い聞かせながらも





日曜日  
私は  
疲弊していった



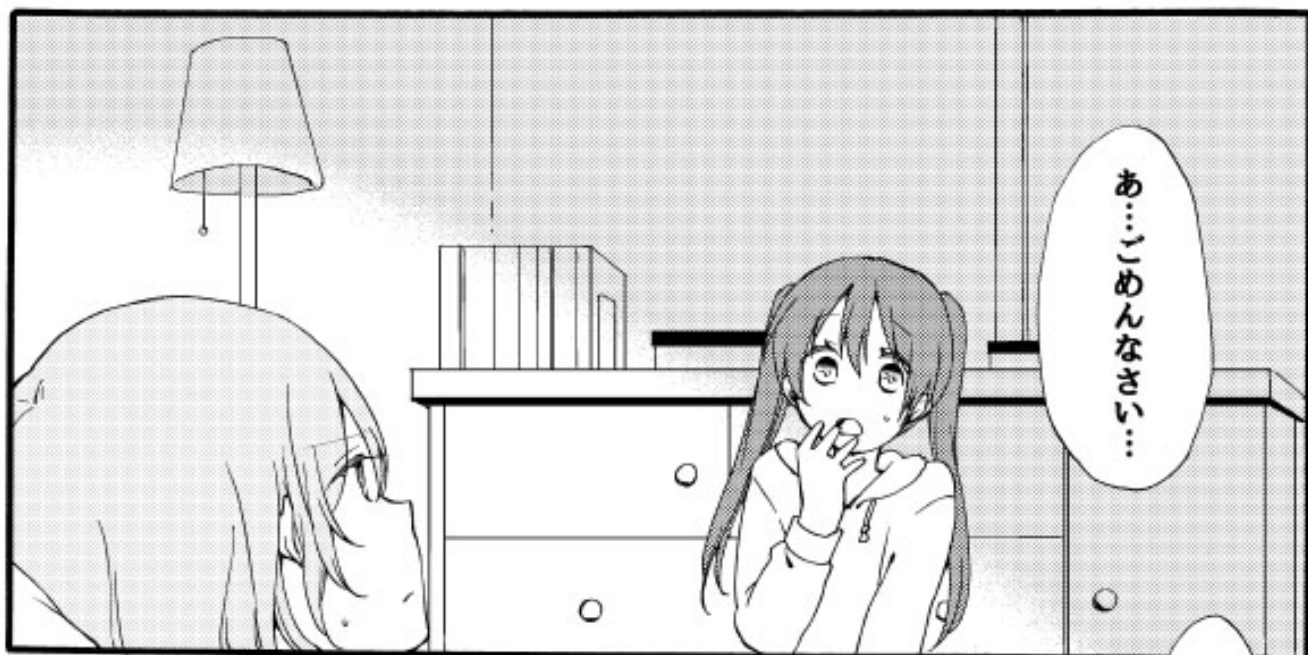




だめだよ!!  
こんな状態の  
ルカちゃん  
ほっとけないよ!





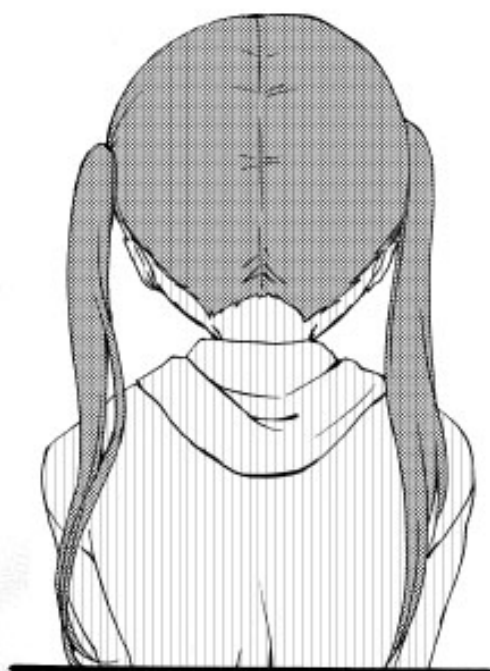


あ……ごめんなさい……



でも……

お世話になったから、  
少しでも役に  
立ちたいって、



そう  
思うんだもん……

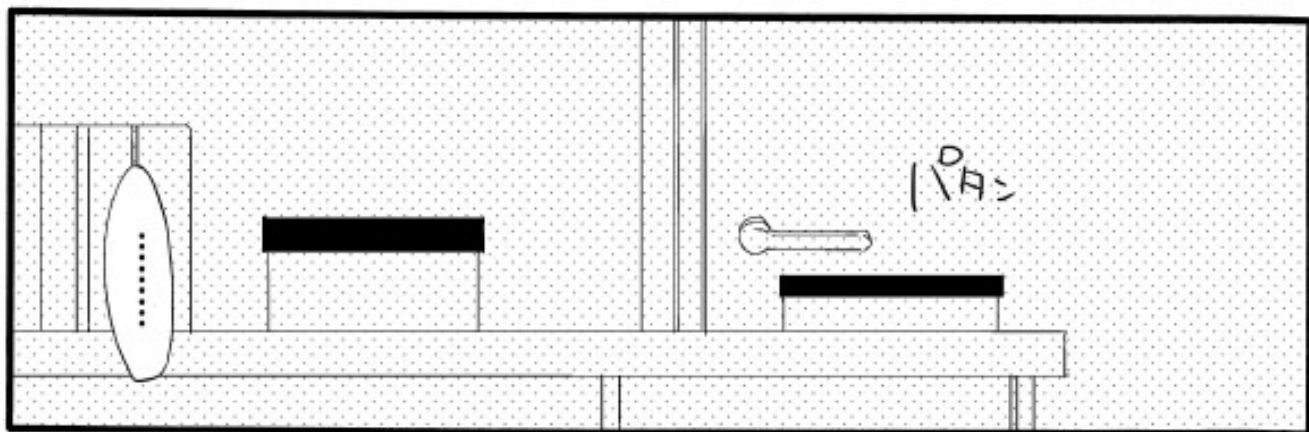


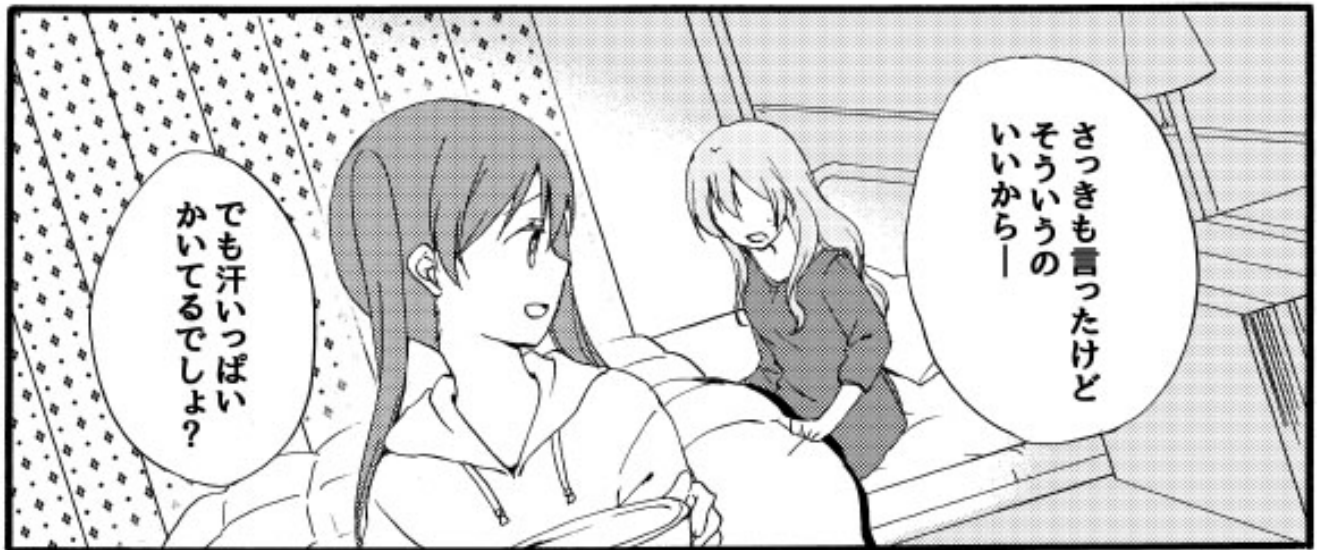
—もう  
好きでしたら。





きつと  
さっぱりするよ！





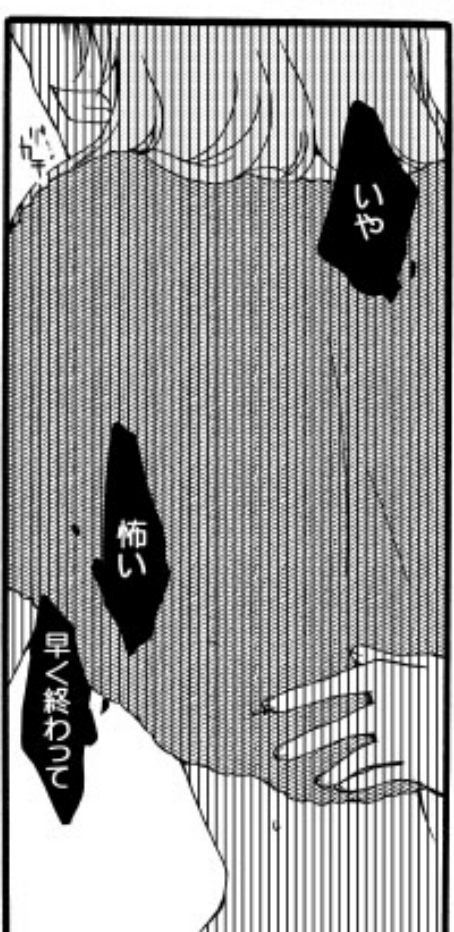
ミルクが……まだ  
食いたがななて……

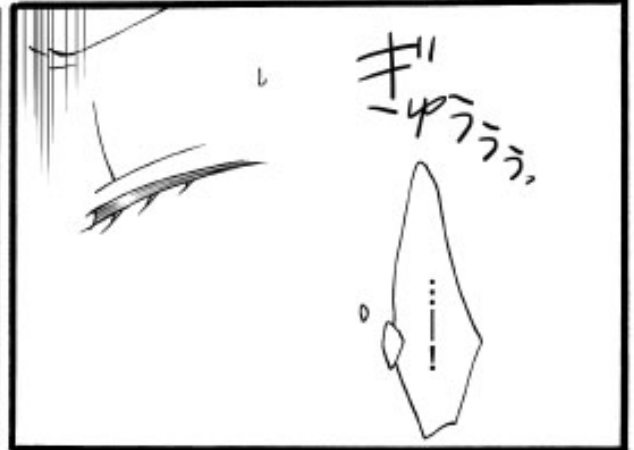
— !

少しでも  
ルカちゃんの  
役に立ちたいの。

……  
……早め  
してよ

いよ









そろそろ  
お湯かえてくるね



77



タオル一枚  
置いておくから

私が拭けない  
ところはルカちゃん  
拭いちやつてね

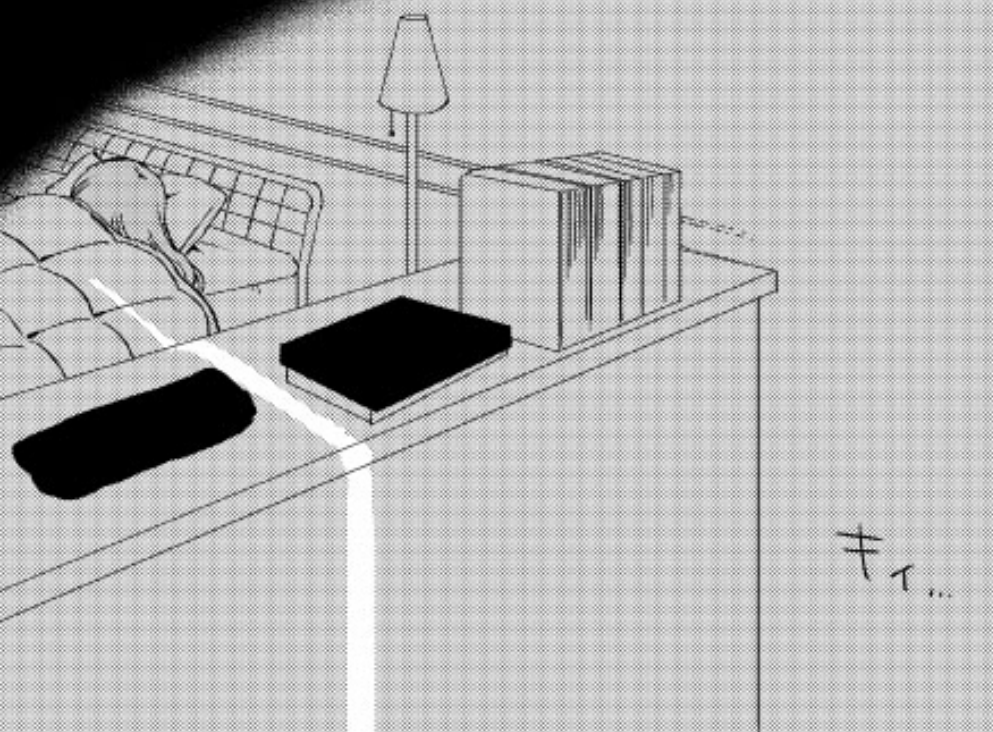
傷…見えて  
なかった訳じゃ  
ないと思うけど…

ミクが驚かなかったことも  
意外だったけど、

もっと驚いたのは  
触られても

…あまり…怖くなかったこと…。

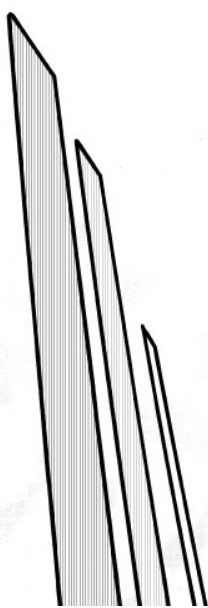
男の人じゃないから？  
それとも…ミクだから？



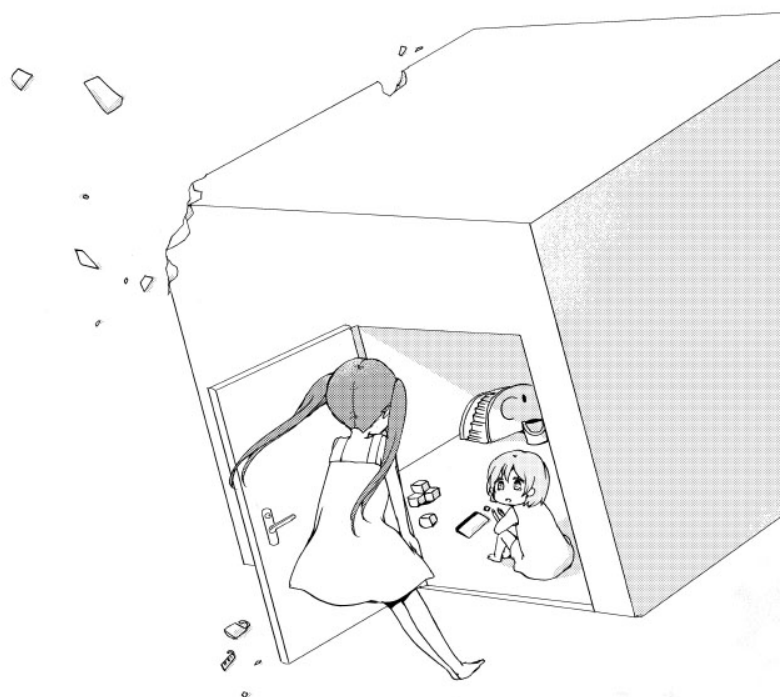


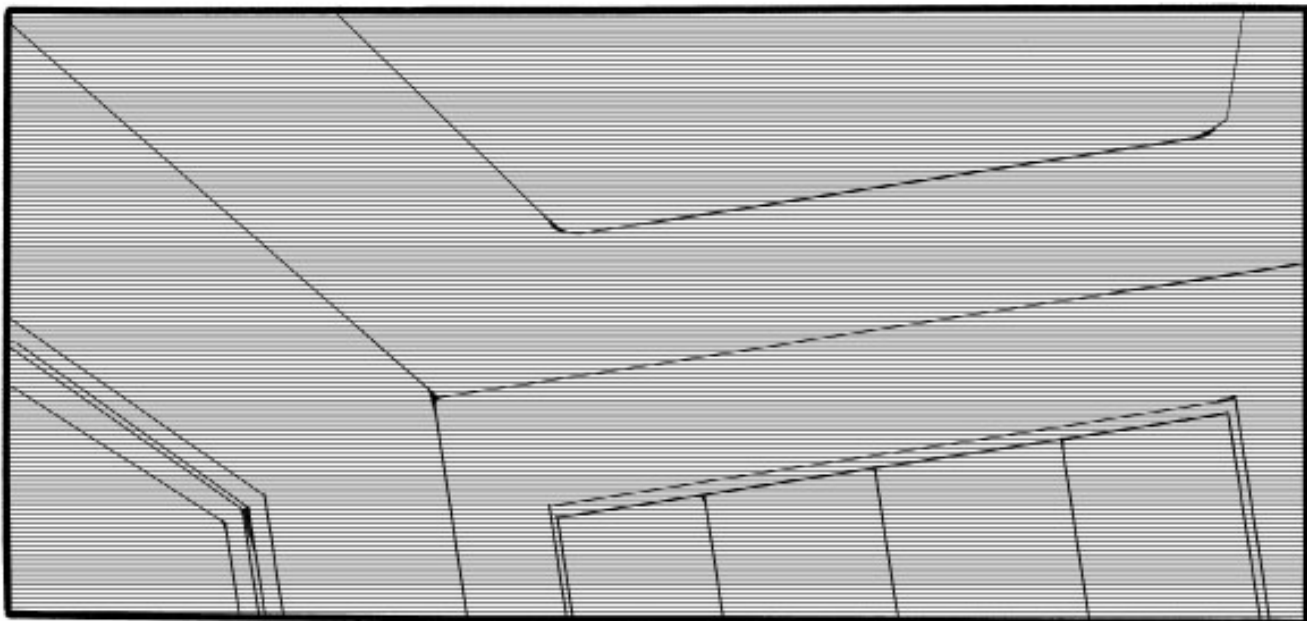
——その夜、  
不思議な夢を見た。





箱から  
出られなかった私を  
誰かが助けてくれる夢だった。





久しぶりに  
よく…眠れたような  
気がする…





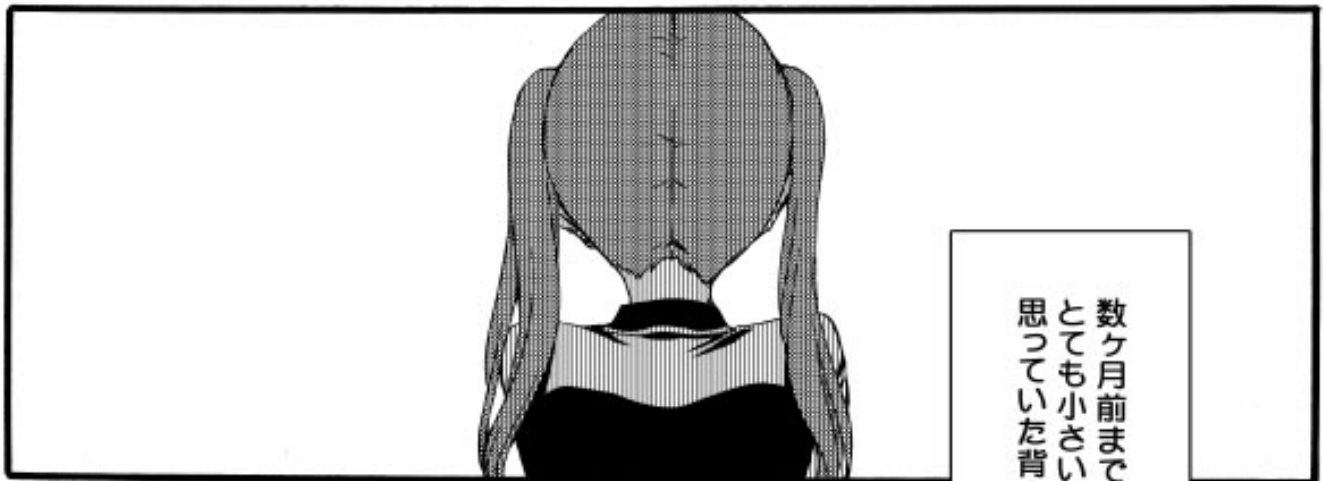




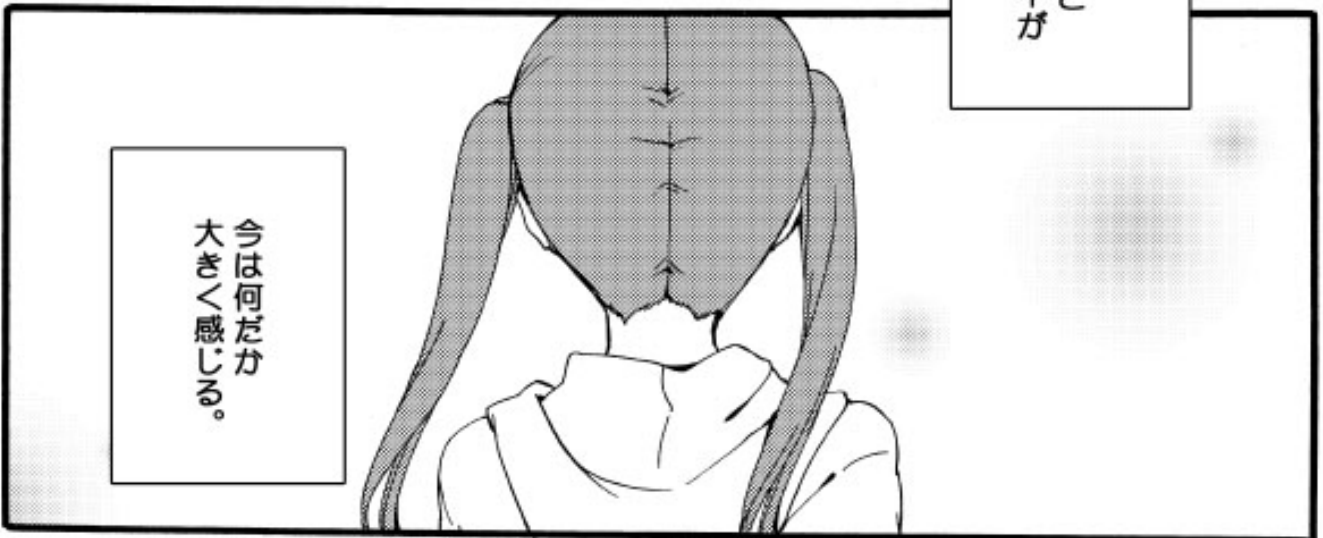








数ヶ月前まで  
とても小さいと  
思っていた背中が



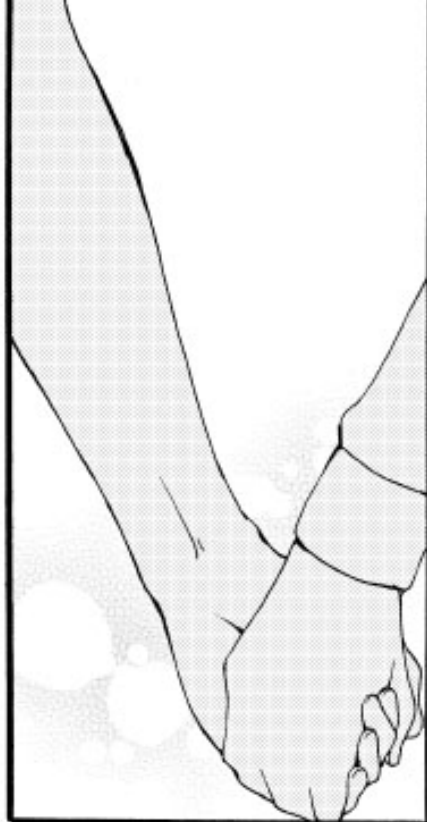
今は何だか  
大きく感じる。

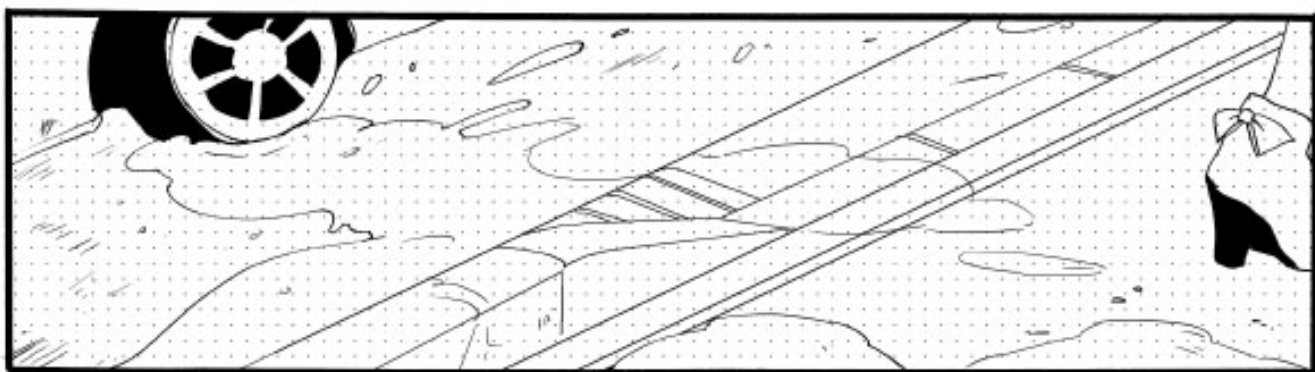


⋮



どうしたの？  
あ、もしかして  
歩くの早かった？





—  
あれから、





ルカちゃんの  
熱はおさまり

だいぶ調子も  
良くなりました。

あと、  
少しでも雰囲気  
変わって、



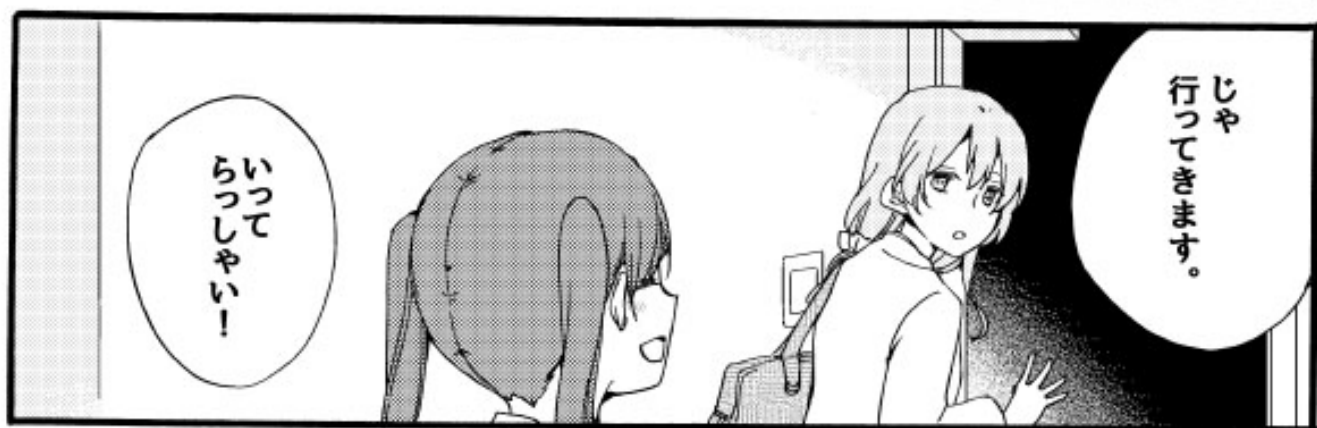
今は初めて会った頃の  
『ふわっとした  
お姉さん』と



怖かった時の  
ルカちゃんの  
間へは  
なってます。

もしかしたら  
こっちが本当の  
ルカちゃんなのかも  
しれません。

どうしてか  
行くところから





背中  
の傷を  
見て  
しまっ  
た日か  
ら

—あの日、



…そう。

自分への罪を  
ルカちゃんに託すのを  
やめました。



—じゃあ…  
これも用済みね。





ううん  
そんなことないよ。



お出かけする時に  
つけていくね。

ルカちゃんからの  
プレゼントだもん。



…好きにしたら？

うん！

あと私が  
知らなかっただけで

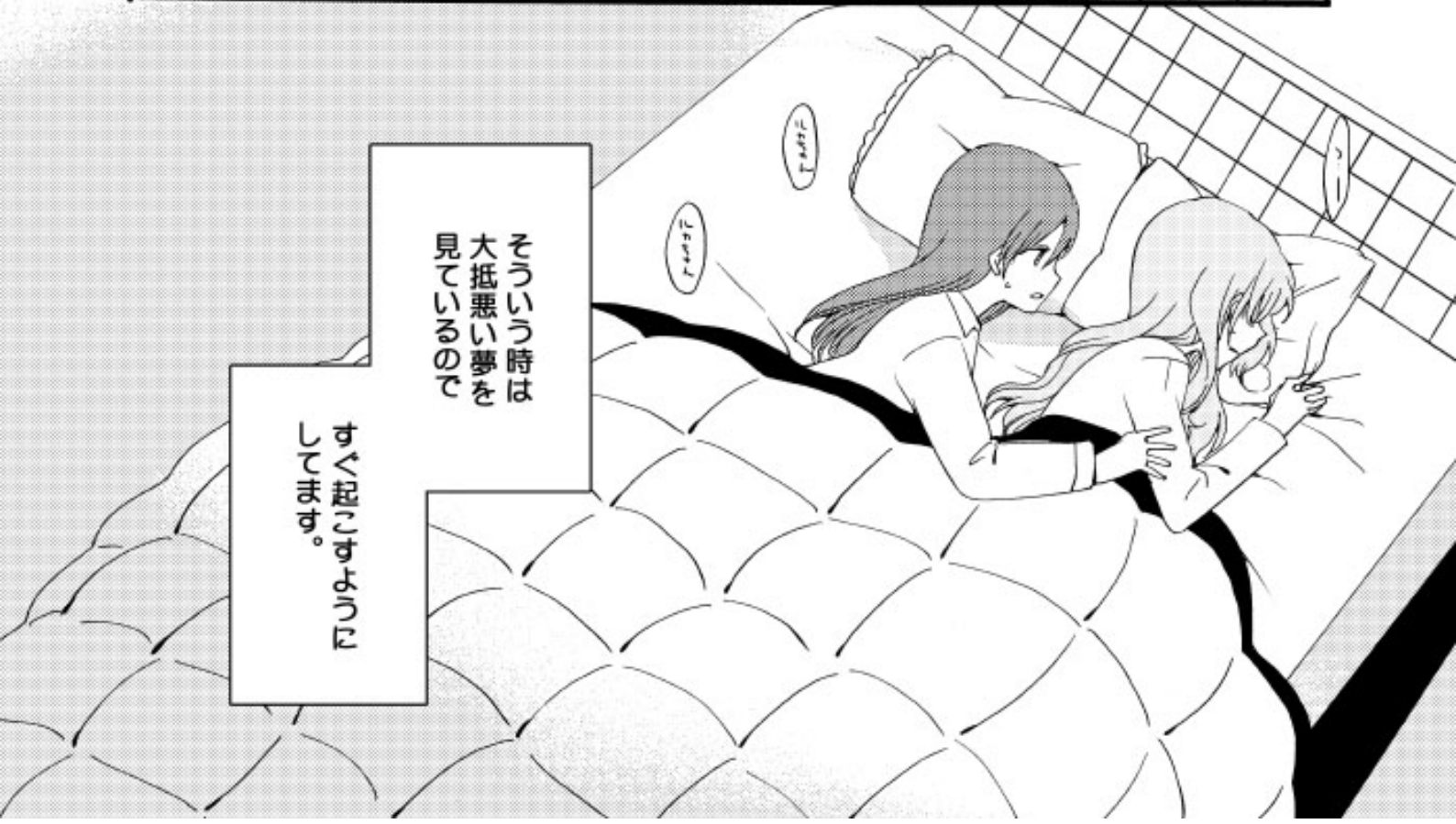
実はルカちゃんも  
夜中うなされることが  
結構あって、

ん…



そういう時は  
大抵悪い夢を  
見ているので

すんません。すんません。





…これで少しは  
悪い夢をみないで  
すんでるといいなと

。おかしな話か。



私がうなされてる時は  
ルカちゃんが  
起こしてくれるから



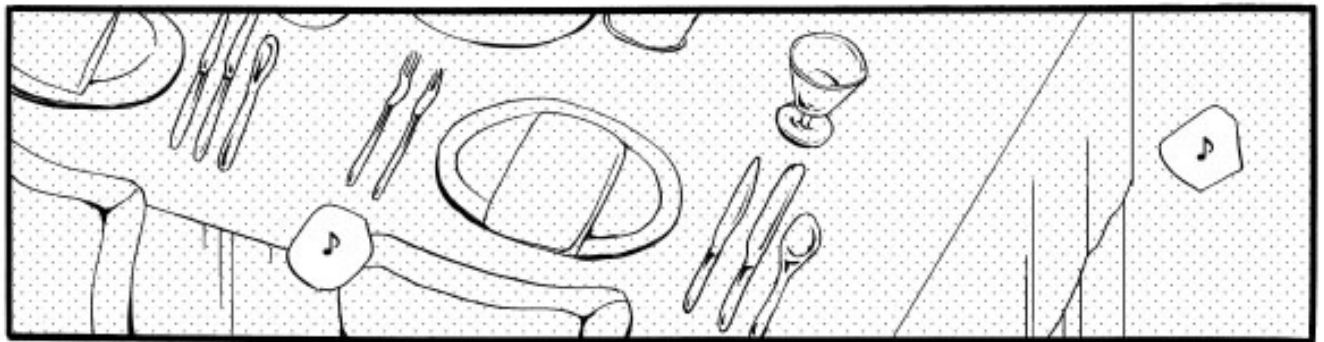
ルカちゃん……

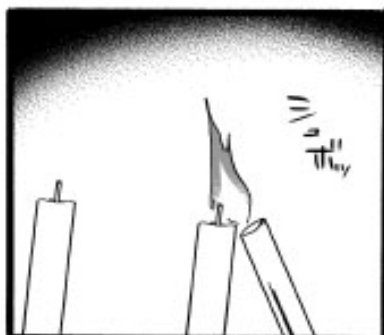
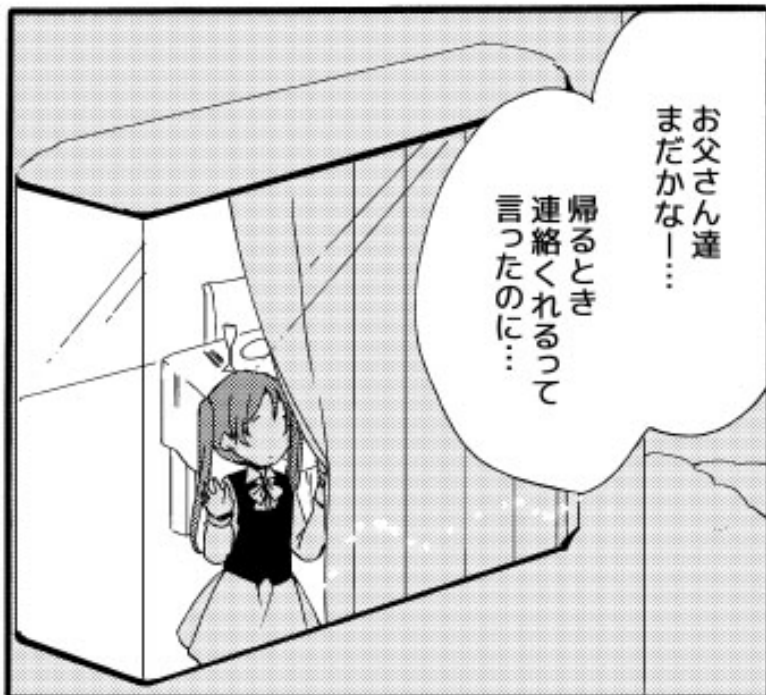
前と比べたら  
安心して眠れる日も  
多いけど

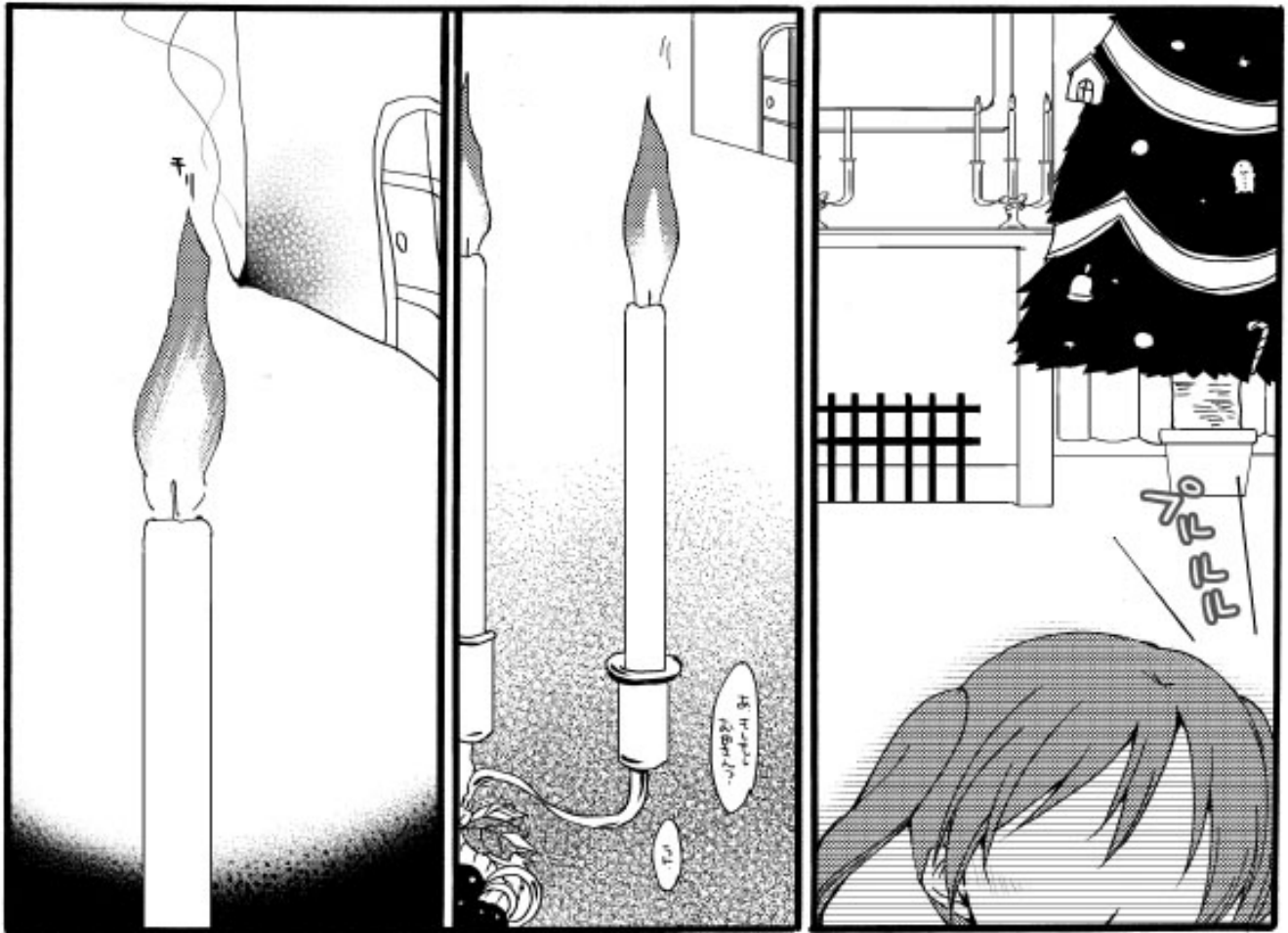
それでもやっぱり  
あの日のように

思い出して  
しまうから……



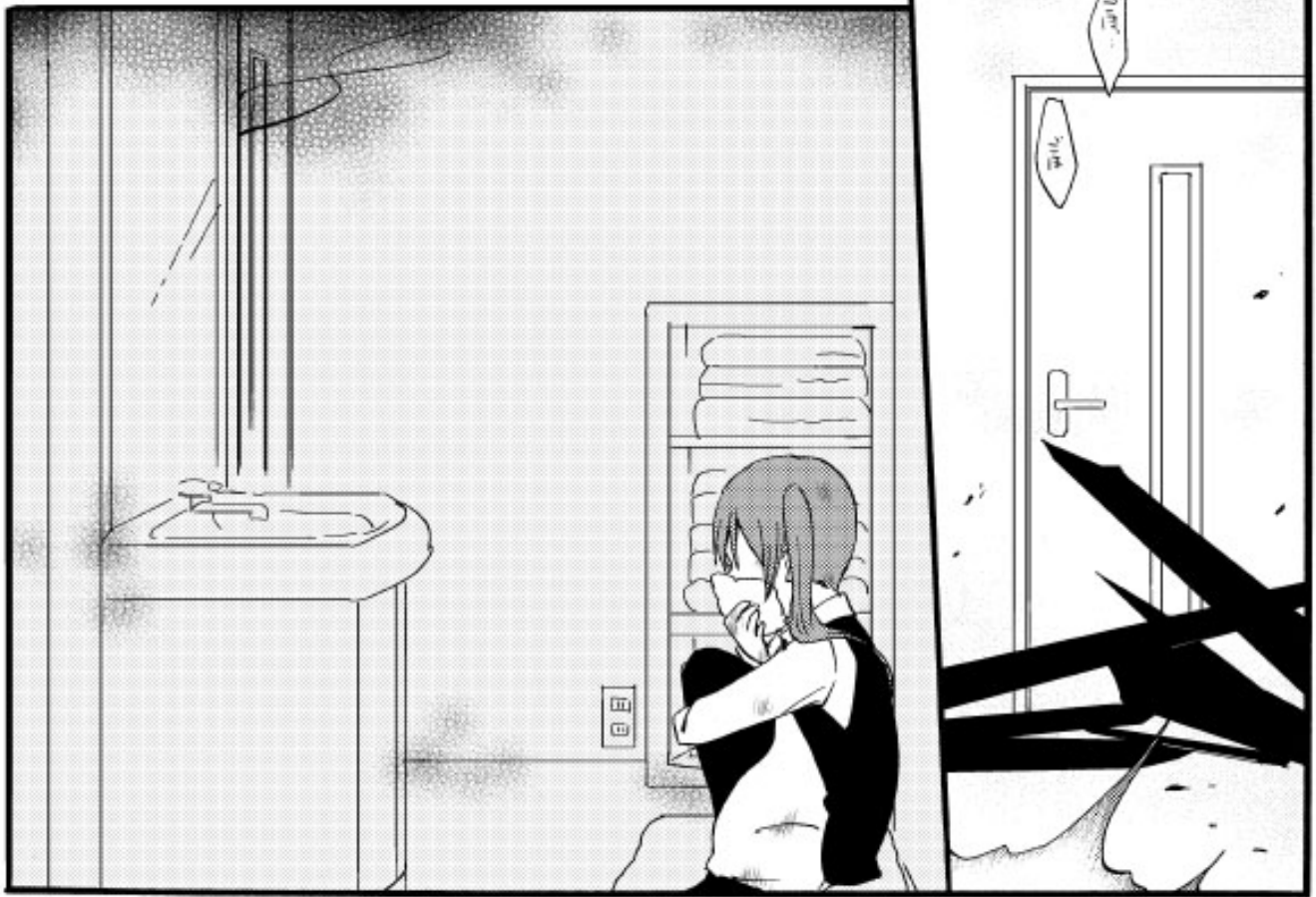
















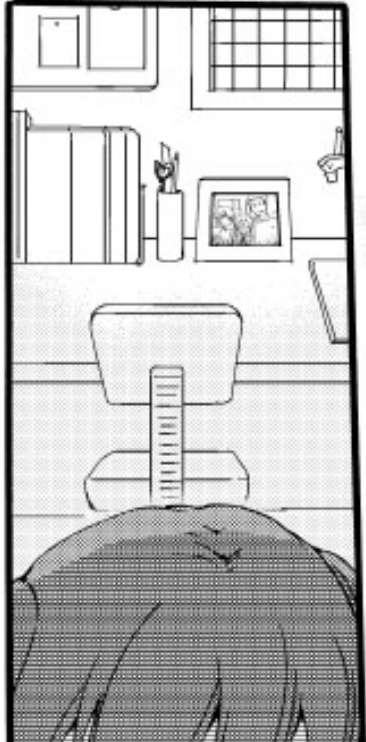


駄目だ!  
もう中へは  
入れない!!





幸せそうな  
いい写真だね



行ってきます。



私は自分だけが  
辛いんだと思って、

全部まかせて、  
甘えて、頼って。

ルカちゃんが  
苦しんでいても  
何もしようとしなかった。

大人とカ子供とか  
関係なくて、

助けて欲しい時が  
あったはずなのに。



ルカちゃんだけ  
じゃない

他の人だって  
辛いことや  
苦しいことがあつて

きっと助けたり  
助けて貰ったり  
してるんだ。

守ってもらう  
だけじゃなくて

ルカちゃんが  
辛い時には私が  
ルカちゃんを守るの。





そーいやさ、



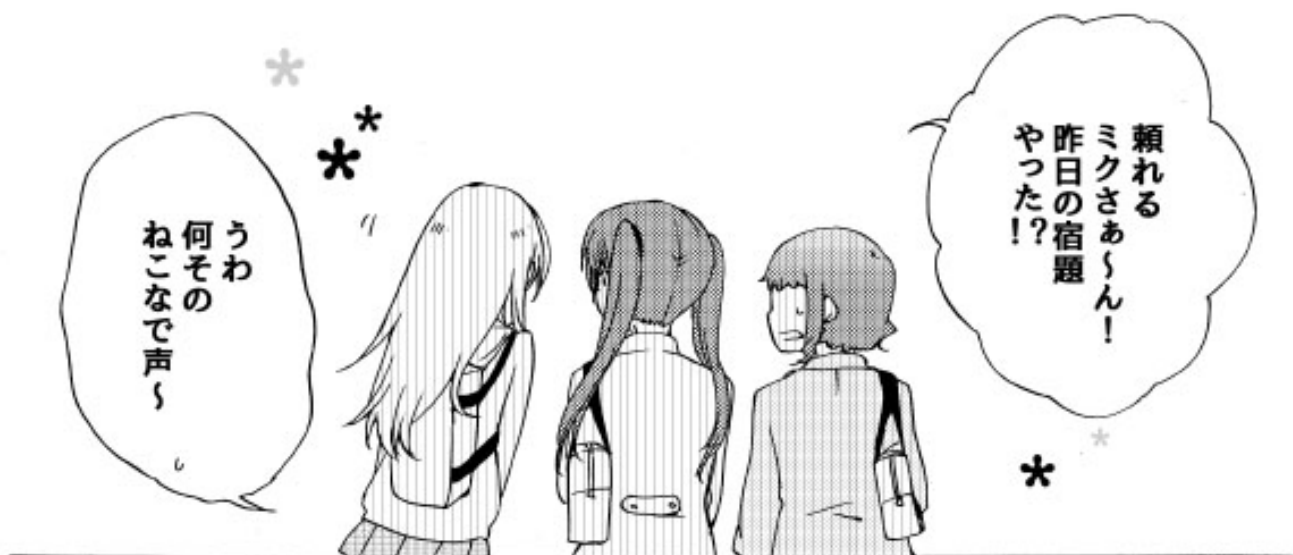
…私じゃ力不足な  
ところもあるかも  
しれないけど、



ミク最近  
雰囲気変わった？

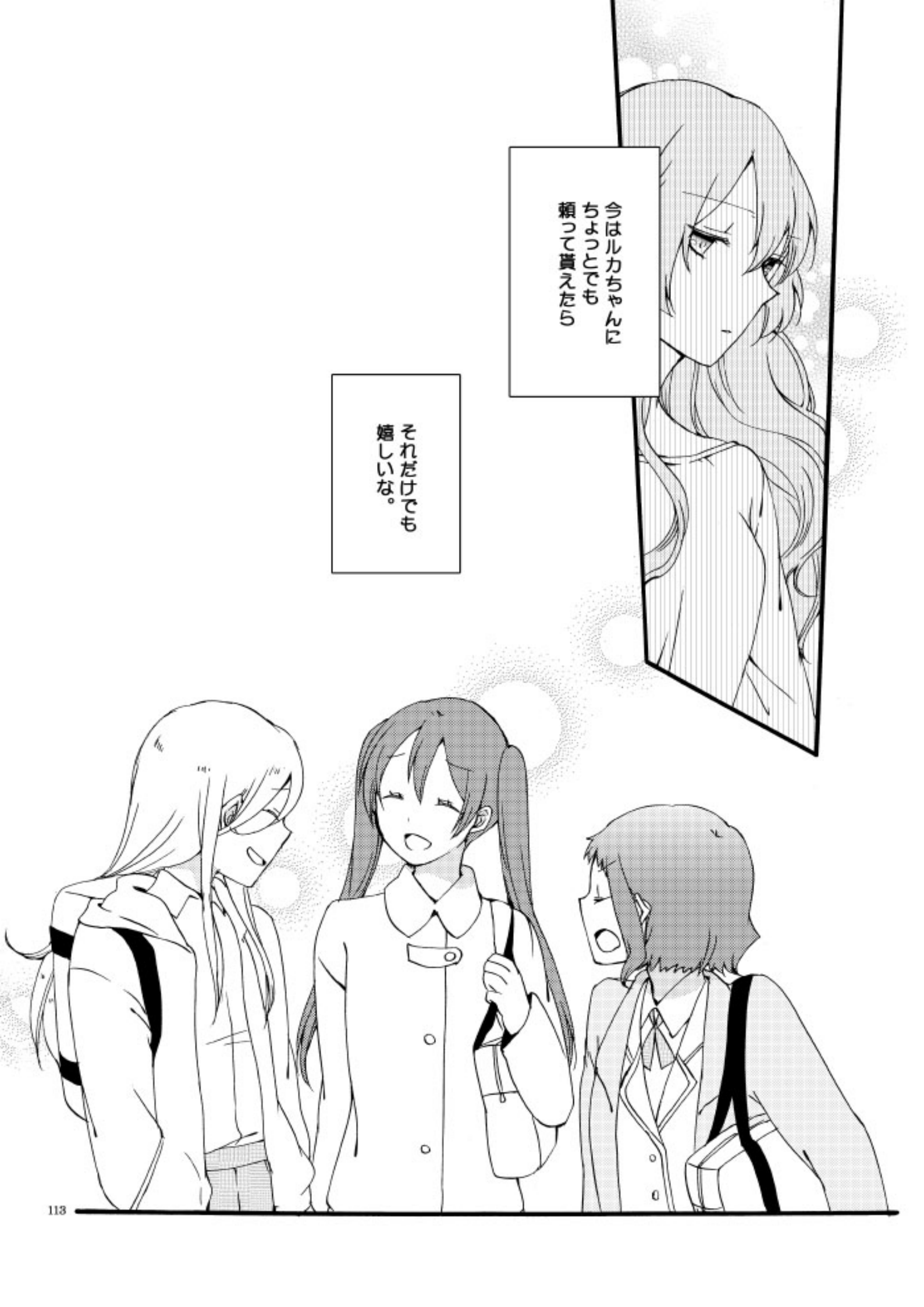
?  
そうかな？

なんかね、  
前よりもたくましく  
なった感じ！



頼れる  
ミクさあ〜ん！  
昨日の宿題  
やった!?

うわ  
何その  
ねこなで声〜



今はルカちゃんに  
ちよつとでも  
頼って貰えたら

それだけでも  
嬉しいな。

# 道德の箱庭・結

*With something to wait before running away from a miniature garden.*